

CTK-4200 WK-220

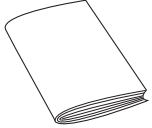
取扱説明書 (保証書別添)

お読みになったあとも保証書とともに大切に保管してください。

安全上のご注意

本機をお使いになる前に、必ず別紙の「安全上のご注意」をお読みください。

付属品一覧

 <p>譜面立て</p>	 <p>楽譜集(2冊)</p>	 <p>ACアダプター: AD-E95100L</p>
 <p>和文操作シート(WK-220のみ)</p>	<p>リーフ類</p> <ul style="list-style-type: none"> • カシオ電子楽器保証書 • 安全上のご注意 • お客様ご相談窓口 • Appendix • その他 	

- 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。(ACアダプター AD-E95100Lは別売品で購入可能)
- 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

別売品のご案内

商品名	品番	商品名	品番
ヘッドホン	CP-16	スタンド	CS-4B
サステインペダル	SP-3		(CTK-4200のみ)
	SP-20		CS-7W
ACアダプター	AD-E95100L	イス	CB-7
ソフトケース	SC-550B (CTK-4200のみ)		CB-30

- カシオ電子楽器取扱店で購入可能。
- 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。
<http://casio.jp/emi/catalogue>

本書の内容について

- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書のイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

■ JIS C 61000-3-2適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。



このマークはEU諸国におけるリサイクル規制のマークです。

ご使用上の注意

別紙「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所
- 極端に温度の低い場所
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所(これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります。)

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

ご使用上の注意.....	1
全体ガイド.....	4
数字、[-]、[+] ボタン(17)の使いかた.....	6
FUNCTION / 機能ボタン(29)について.....	6
工場出荷時の状態に戻すには.....	7
演奏の準備.....	8
譜面立て、操作シート(WK-220 のみ)の準備.....	8
電源の準備.....	8
演奏してみよう.....	9
電源を入れて演奏してみよう.....	9
▲“Pls wait”表示中のご注意.....	9
ヘッドホンを使う.....	9
マイクを使う(WK-220 のみ).....	10
鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス).....	10
液晶画面のコントラストを調整する.....	10
メトロノームを使ってみよう.....	11
音を変えて弾いてみよう.....	12
いろいろな楽器の音色で弾いてみよう.....	12
2つの音色を重ねてみよう(レイヤー).....	13
鍵盤の高音域と低音域で 音色を変えてみよう(スプリット).....	13
響くような音で弾いてみよう(リバーブ).....	14
音に厚みをつけてみよう(コーラス).....	14
ペダルを使ってみよう.....	15
音の高さを変えて弾いてみよう (トランスポーズ、チューニング、 オクターブシフト).....	15

好きな音を記録して 弾いてみよう (サンプリング)..... 17

接続と準備.....	17
音を記録してメロディーを弾いてみよう (メロディーサンプリング).....	17
音を記録してドラムセットに 組み込んでみよう(ドラムサンプリング).....	20
サンプリング機能を使いこなそう.....	22

ソング(内蔵曲)を鳴らそう... 24

デモを聴いてみよう.....	24
ソングを1曲ずつ聴いてみよう.....	24
ソングを増やす(ユーザーソング).....	26

ソング(内蔵曲)で曲を マスターしよう..... 27

フレーズについて.....	27
ステップアップレッスンの流れ.....	27
練習するソング、フレーズ、パートを選ぶ.....	28
レッスン1~3をはじめよう.....	29
レッスン中のさまざまな設定.....	30
自動的にレッスンを進めてみよう -自動ステップアップレッスン-	31

鍵盤ゲーム (ミュージックチャレンジ)... 32

自動伴奏をバックに 演奏しよう.....33

- リズムパートだけを鳴らそう..... 33
- すべてのパートを鳴らしてみよう..... 34
- 自動伴奏を使いこなそう..... 36
- お勧めの音色やテンポにする
(ワンタッチプリセット)..... 37
- メロディーの音に和音をつけてみよう
(オートハーモナイズ)..... 38
- コード(和音)の音を調べる
(コードブック)..... 39

自動伴奏を編集してみよう...40

設定を登録しよう (レジストレーション).....43

- 登録する..... 44
- 登録したデータを呼び出す..... 44

演奏を録音してみよう (レコーダー).....45

- 演奏を録音・再生する..... 45
- パートごとに重ねて録音する・
選んで再生する..... 46
- 2曲以上録音する・選んで再生する..... 47
- ソング(内蔵曲)と一緒に演奏して
録音する..... 48
- 録音したデータを外部機器に保存する..... 48

本機をさらに 使いこなすには.....49

- 鍵盤の音律(スケール)を変えてみる..... 49
- ミュージックプリセット..... 50
- アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす
(アルペジエーター)..... 51
- ユーザーソングのデータを消去する..... 52
- 本機に記録されているデータを
まとめて消去する..... 52

他の外部機器と接続する..... 53

- パソコンとの接続..... 53
- 各種 MIDI 設定..... 54
- 本機のデータをパソコンに保存する/
本機のソングや自動伴奏を増やす..... 55
- オーディオ機器とつなぐ..... 56

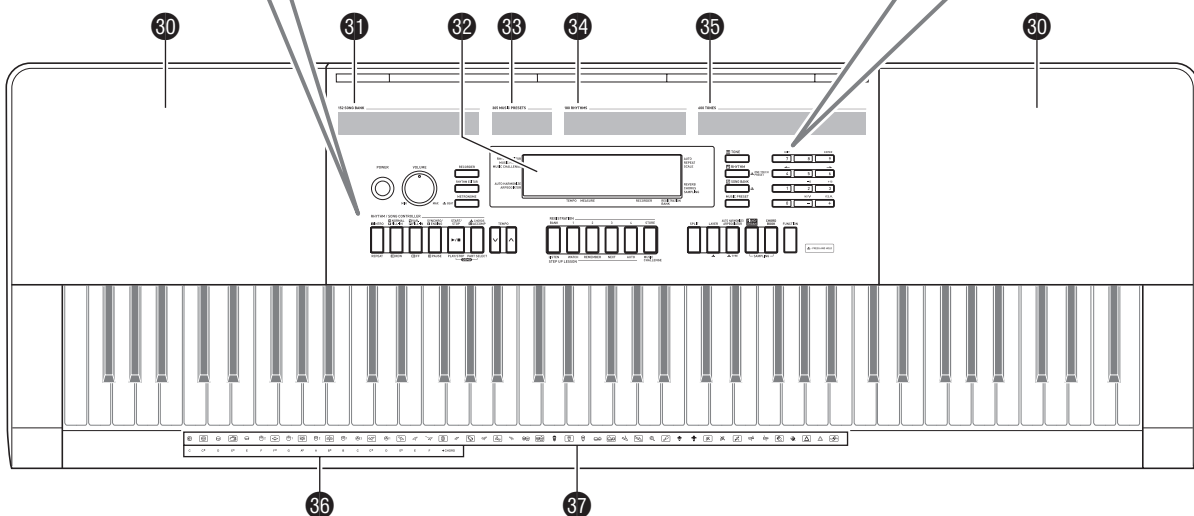
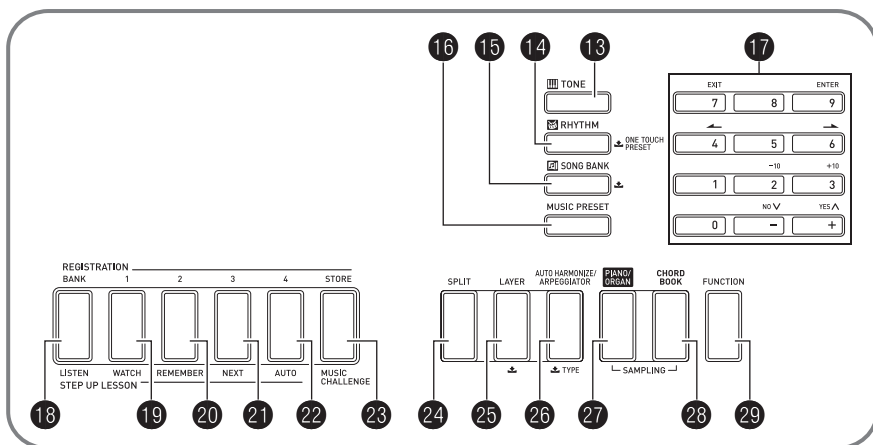
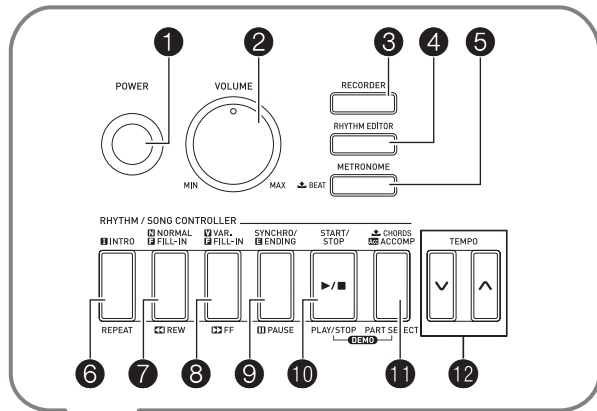
資料..... 57




- 困ったときは..... 57
- 製品仕様..... 59
- 保証・アフターサービスについて..... 60
- エラーメッセージ一覧..... 61
- ソングリスト..... 62
- 指定できるコード種一覧..... 63
- コード例一覧..... 64

MIDI インプリメンテーション・ チャート

全体ガイド

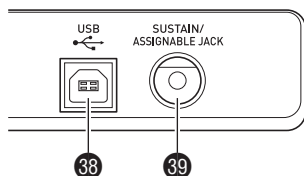
- 本書に記載されているイラストは、WK-220(和文操作シートをかぶせていない状態)です。
- 本書の操作説明では、ボタンやつまみなどを番号で表現します。
- CTK-4200の楽器本体では、ボタン名やリストが日本語で印刷されており本書のイラストとは異なります。
- 本書の巻末にある資料に、各部の番号を掲載しています。切り離してご活用ください。







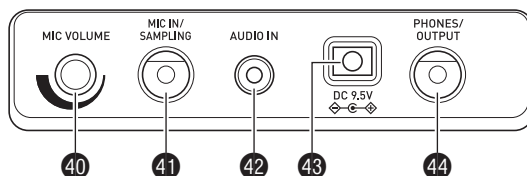
- 英語はWK-220、その上の日本語はCTK-4200の各パネル表記です。
- 製品本体、および下記のボタンの名称と一緒に記載されている、 というマークは、次の意味です。
 : そのボタンをしばらく押したままにしたときに、有効になる機能です。
-  マークの数字は参照ページです。




- ① ^{電源} POWERボタン  9
- ② ^{音量} VOLUMEつまみ  9
- ③ ^{レコーダー} RECORDERボタン  45
- ④ ^{リズムエディター} RHYTHM EDITORボタン  40
- ⑤ ^{メトロノーム} METRONOME, ^{拍子}  BEATボタン  11
- ⑥ ^{イントロ} INTRO, ^{リピート} REPEATボタン  25, 36
- ⑦ ^{ノーマル/フィルイン} NORMAL/FILL-IN, ^{早戻し} REWボタン  25, 36
- ⑧ ^{バリエーション/フィルイン} VAR./FILL-IN, ^{早送り} FFボタン  25, 36
- ⑨ ^{シンクロ/エンディング} SYNCHRO/ENDING, ^{一時停止} PAUSEボタン  25, 36
- ⑩ ^{スタート/ストップ} START/STOP, ^{演奏/停止} PLAY/STOPボタン  24, 33
- ⑪ ^{コード}  CHORDS, ^{伴奏} ACCOMP, ^{パートセレクト} PART SELECTボタン  26, 34
- ⑫ ^{テンポ} TEMPOボタン  11
- ⑬ ^{トーン} TONEボタン  12
- ⑭ ^{リズム} RHYTHM, ^{ワンタッチプリセット}  ONE TOUCH PRESETボタン  33, 37
- ⑮ ^{ソングバンク} SONG BANKボタン  24
- ⑯ ^{ミュージックプリセット} MUSIC PRESETボタン  50
- ⑰ 数字, [-]/[+]ボタン  6
- ⑱ ^{バンク} BANK, ^{レッスン1} LISTENボタン  29, 43
- ⑲ ^{レッスン2} エリア1, WATCHボタン  29, 43
- ⑳ ^{レッスン3} エリア2, REMEMBERボタン  29, 43
- ㉑ ^{次のフレーズ} エリア3, NEXTボタン  28, 43
- ㉒ ^{マスター} エリア4, AUTOボタン  31, 43
- ㉓ ^{ストア} STORE, ^{ミュージックチャレンジ} MUSIC CHALLENGEボタン  32, 44
- ㉔ ^{スプリット} SPLITボタン  13
- ㉕ ^{レイヤー} LAYERボタン  13
- ㉖ ^{オートハーモナイズ/アルペジエーター} AUTO HARMONIZE/ARPEGGIATOR, ^{タイプ}  TYPEボタン  38, 51
- ㉗ ^{ピアノ/オルガン} PIANO/ORGANボタン  12
- ㉘ ^{コードブック} CHORD BOOKボタン  39
- ㉙ ^{機能} FUNCTIONボタン  6
- ⑳ スピーカー
- ㉑ ソングバンクリスト
- ㉒ 液晶画面
- ㉓ ミュージック プリセットリスト
- ㉔ リズムリスト
- ㉕ トーンリスト
- ㉖ コードルート音名  34
- ㉗ 打楽器イラスト  12

■ 背面部



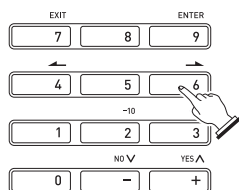
- ⑳ USB端子  53
- ㉑ ^{サステイン/アサインナブル} SUSTAIN/ASSIGNABLE JACK端子  15
- ㉒ ^{マイクの音量} MIC VOLUMEつまみ (WK-220のみ)  17
- ㉓ ^{マイク入力/サンプリング} MIC IN/SAMPLING端子 (WK-220のみ)  17



- ㉔ ^{オーディオ入力} AUDIO IN端子  17
- ㉕ 電源端子 (DC 9.5V)  8
- ㉖ ^{ヘッドホン/アウトプット} PHONES/OUTPUT端子  9

数字、[-]、[+]ボタン(17)の使いかた

液晶画面の左上に表示されている番号などを変更します。



番号など



数字ボタン

数字ボタンを押すと、選びたい番号や数値を入力できます。

- 入力するときは、表示されている数値と同じ桁数を入力します
例：音色番号001を選ぶ場合は“0”→“0”→“1”と入力する。

メモ

- 負(マイナス)の値は、数字ボタンでは入力できません。
[-]または[+]ボタンで入力してください。

[-]、[+]ボタン

[-]または[+]を押すと、表示されている番号や数値を1ずつ増減させます。

- ボタンを押し続けると番号や数値が連続して増減します。
- 両方のボタンを同時に押すと初期値、またはお勧めの数値になります。

FUNCTION/機能ボタン(29)について

この楽器では音の響き方を調整したり、保存したデータを消去するなどのさまざまな機能が、FUNCTION/機能ボタン(29)に搭載されています。

機能を選ぶには

1. 29 (FUNCTION/機能)を押します。
液晶画面の左上に、機能名が表示されます。

- もう一度 29 (FUNCTION/機能)を押すと、元の表示に戻ります。

2. 17 (数字、-+ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を押して、以下の表の1~13のなかから機能を選びます。

- 8~13(10「プリセットスケール」を除く)を選んだ場合は、さらに17 (数字、-+ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押して、[4] (←)または[6] (→)でサブ機能を選びます。[7] (EXIT/戻る)を押すと、[9] (ENTER/エンター)を押す前の画面に戻ります。
- 選んだ機能の詳細については、以下の表に書かれた参照ページをご参照ください。
- 機能を選んだ後、17 (数字、-+ボタン)の[2] (-10)または[3] (+10)を押して、表示されている番号や数値を10ずつ増やしたり減らしたりできます(以下の表の“13 データの消去”を除く)。

	機能名	表示	参照ページ
1	トランスポーズ	Trans.	15
2	自動伴奏の音量	AcompVol	37
3	ソングの音量	Song Vol	26
4	タッチレスポンス	Touch	10
5	チューニング	Tune	15
6	リバーブ	Reverb	14
7	コーラス	Chorus	14
8	サンプリング	SAMPLING	
	サンプリング自動スタート	AutoStrt	22
	サンプリング自動ストップ	AutoStop	22
	サンプリング音色プロテクト	(Protect)	23
9	ステップアップレッスン	LESSON	
	運指音声	Speak	30
	弾くべき音のガイド	NoteGuid	30
	採点	Scoring	30
	フレーズの長さ	PhraseLn	31
10	プリセットスケール	SCALE	49
11	その他の設定	OTHER	
	アルペジエーターホールド	ArpegHld	51
	ペダルの効果	Jack	15
	自動伴奏スケール	AcompScl	50
	液晶画面のコントラスト	Contrast	10
12	MIDI設定	MIDI	
	キーボードチャンネル	Keybd Ch	54
	ナビゲートチャンネル	Navi. Ch	54
	ローカルコントロール	Local	55
	ア कंपアウト	AcompOut	55
13	データの消去	DELETE	
	サンプリング音色の消去	(tone name)	23
	ユーザーリズムの消去	(rhythm name)	42
	ユーザーソングの消去	(song name)	52
	すべてのデータの消去	All Data	52

重要

- 音色などの各種設定は、本機の電源を入れなおすと初期値に戻ります。

工場出荷時の状態に戻すには

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

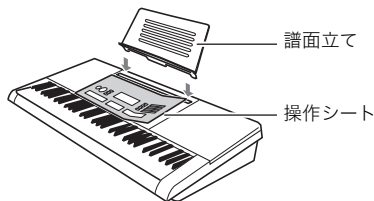
1. 本機の電源を切ります。
2. **15**と**17**(数字、-+ボタン)の[1]を両方とも押しながら、**1**を押します。
 - **15**と**17**(数字、-+ボタン)の[1]を離さずに押したままで、次へ進んでください。
3. 液晶画面に“Pls wait”と表示されたら、**15**と**17**(数字、-+ボタン)の[1]を離します。
 - システムの初期化をしばらく行った後に、演奏できる状態になります。

メモ

- 電源のオンオフ操作については、9ページ「電源を入れて演奏してみよう」をご参照ください。

演奏の準備

譜面立て、操作シート (WK-220のみ)の準備



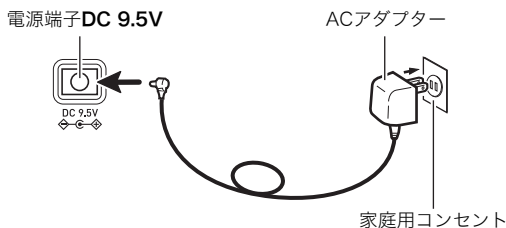
電源の準備

この楽器は電源としてACアダプターか乾電池をご使用できますが、基本的にはACアダプターをご使用されることをお勧めします。

ACアダプターを使う場合

本機指定のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)を使用してください。他のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式:AD-E95100L



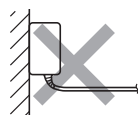
重要

- ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。
- 断線防止のため、コードになるべく負荷がかからないようご注意ください。

折り曲げない

引っ張らない

巻きつけない



- 本機の電源端子(DC 9.5V)に、金属片や鉛筆などを入れないようご注意ください。これらが端子に入ると、事故の原因になります。

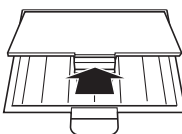
乾電池を使う場合

重要

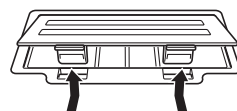
- 乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 乾電池は市販の乾電池をご使用ください(オキシライド乾電池などのニッケル系一次電池は使用しないでください)。

- 本機の裏側にある電池プタをはずします。

<CTK-4200>



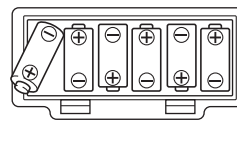
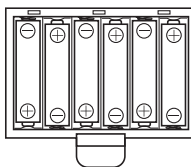
<WK-220>



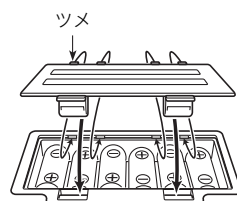
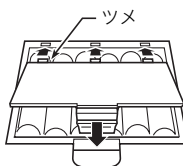
- 市販の乾電池、6本を電池ケースに入れます。

- CTK-4200: 単3形乾電池
- WK-220: 単1形乾電池

イラストに合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。

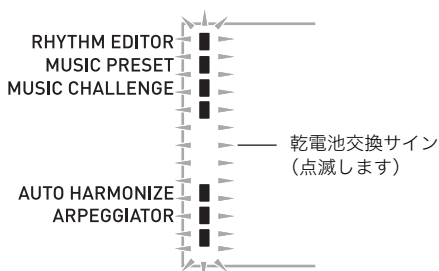


- 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。



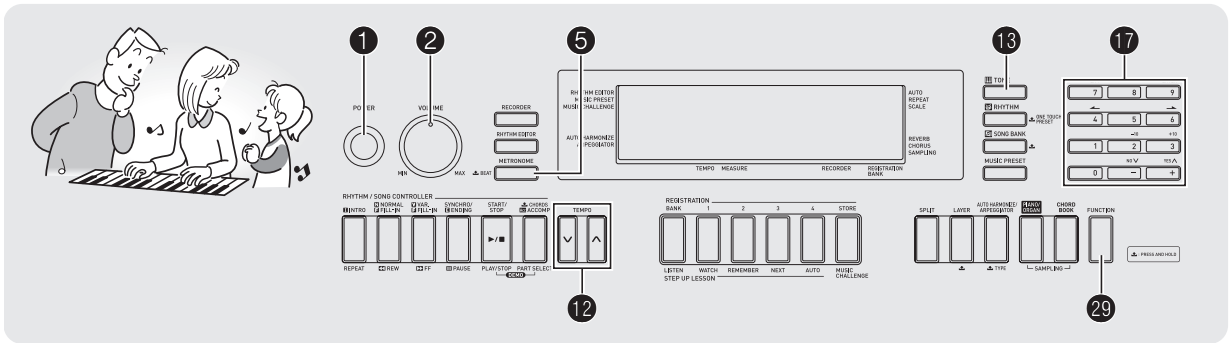
■ 乾電池交換時期のお知らせ表示

乾電池が消耗してくると以下の表示が点滅しますので、新しい乾電池と交換してください。



乾電池交換サイン
(点滅します)

演奏してみよう



電源を入れて演奏してみよう

1. ①を押します。
電源が入ります。
• 電源を切るには、もう一度①を押します。
2. 鍵盤を弾いてみましょう。また②で音量の調整をしましょう。



重要

- ①を軽く押すと、液晶画面が一瞬点灯し、電源が入らない場合がありますが故障ではありません。その場合は①をしっかりと押し直してください。
- 本機の電源を切ると、音色やリズム番号などの各種設定が初期化されます(サンプリング音色のプロテクト設定を除く)。

▲“Pls wait”表示中のご注意

液晶画面に“Pls wait”と表示されているときは、本機の操作を一切行わないでお待ちください。

- “Pls wait”表示中は、本機内部でデータの保存処理を行っています。このとき本機の電源が落ちると、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

オートパワーオフ機能

本機を使用中に以下の時間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。

- 乾電池で使用しているとき : 6分間
- アダプターを接続しているとき : 30分間

■オートパワーオフ機能をキャンセルして使う

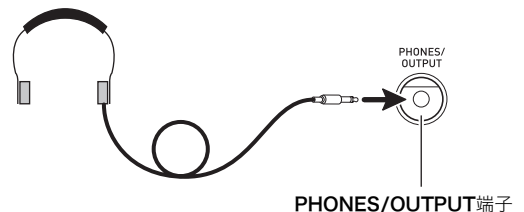
コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能をキャンセルして使用できます。

1. ⑬(TONE/トーン)を押しながら電源を入れます。
オートパワーオフ機能がキャンセルされて電源が入ります。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。

- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを接続してください。



メモ

- ヘッドホンは本製品に付属されていません。
- 別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

重要

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害になる恐れがあります。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。

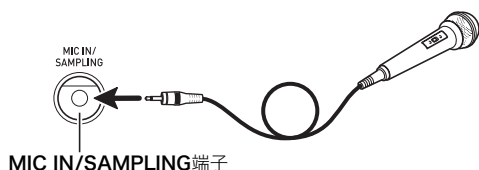
マイクを使う(WK-220のみ)

市販のマイク※を接続すると、マイクから入力した音声を、本機のスピーカーから鳴らすことができます。

※ダイナミックマイクをご使用ください。

- マイクからの入力音声の音量は、**40 (MIC VOLUME)**を使って、キーボード全体の音量とは独立して調節することができます。
- マイクからの入力音声には、本機の内蔵エフェクト(リバーブ、コーラス)がかかります。

詳しくは、12ページ「音を変えて弾いてみよう」をご参照ください。



重要

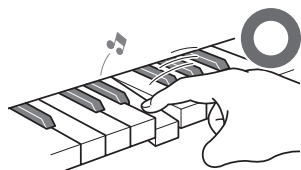
- 接続する前に、本機とマイクの電源を切ってください。
- 接続する前に、**2**と**40 (MIC VOLUME)**の両方を絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス)

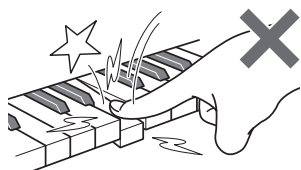
タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うと本物のピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量が変化し、演奏の表現が豊かになります。



すばやく押すと大きな音が出ます



ゆっくり押すと小さな音が出ます



強く押しすぎないようにしましょう

タッチレスポンスの感度を変える

鍵盤を押した速さにより変化する音量の大きさを変えてみましょう。自分の演奏スタイルに合わせた設定で楽しめます。

1. **29 (FUNCTION/機能)**を押して、**17 (数字、-+ボタン)**の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“Touch”と表示させます(6ページ)。

Touch

2. **17 (数字、-+ボタン)**の[-]または[+]を押して、タッチレスポンスの感度を下記の3種類から選びます。

オフ(oFF)	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
タイプ1 (1)	標準的な設定です。
タイプ2 (2)	タイプ1より大きな音を出しやすい設定になります。

液晶画面のコントラストを調整する

1. **29 (FUNCTION/機能)**を押して、**17 (数字、-+ボタン)**の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。

点滅します

OTHER

2. **17 (数字、-+ボタン)**の[9] (ENTER/エンター)を押します。
3. **17 (数字、-+ボタン)**の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“Contrast”と表示させます。

Contrast

4. **17 (数字、-+ボタン)**の[-]または[+]を押して、コントラストを調整します。
 - コントラストの設定範囲は01 ~ 17です。

メトロノームを使ってみよう

メトロノームを使うと一定の間隔で音を刻みますので、演奏や練習のときにテンポを正しく保つことができます。自分にあったテンポで練習しましょう。

スタート/ストップ

1. ⑤を押します。

メトロノームがスタートします。



2. もう一回⑤を押すと、メトロノームが止まります。

拍子を変える

曲の拍子に合わせて1拍目に「チーン」と鳴らし、それ以外の拍では「カチ」と鳴らすことができます。

- 拍子は、0、2、3、4、5、6拍子から選べます。
- ソング(内蔵曲)の演奏中は、その曲の拍子になります。

1. ⑤をしばらく押し続けます。

液晶表示が拍子を変更する表示になります。

- しばらく何も操作しないと、元の表示に戻ります。

Beat

2. ⑰(数字、-+ボタン)を押して、拍子の数を入力します。

- 0拍子を選ぶと「チーン」と鳴りません。拍子を気にすることなく練習したいときに使います。

テンポを変える

自分の弾きたいテンポとメトロノームのテンポをあわせませす。

1. ⑫を押します。

▼を押すとテンポが遅くなり、▲を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。

- ▼▲を一緒に押すと、そのときに選ばれているソングやリズムの初期値に戻ります。
- ⑫を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。点滅中は⑰(数字、-+ボタン)でもテンポ数を変えることができます。
例: テンポ89を入力するときは“0”→“8”→“9”と最初に0を入力します。
- しばらく何も操作しないと、テンポ数の点滅が終了して点灯に戻ります。



メトロノームの音量を変える

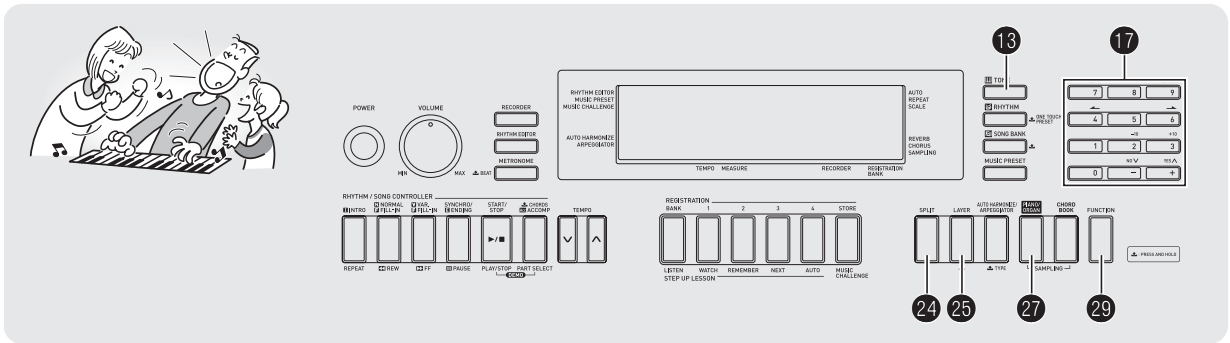
メトロノームの音量を変更するには、自動伴奏の音量やソング(内蔵曲)の音量の設定を変えます。

- 自動伴奏の音量変更は、37ページをご参照ください。
- ソングの音量変更は、26ページをご参照ください。

メモ

- 自動伴奏や自動演奏曲と、メトロノームとの音量バランスは変更できません。

音を変えて弾いてみよう

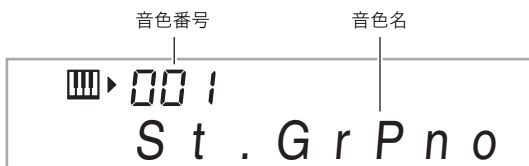


いろいろな楽器の音色で弾いてみよう

この楽器はバイオリン、フルート、オーケストラの楽器など、さまざまな楽器の音色で演奏ができます。同じ曲でも楽器の種類を替えて弾けば、さらに多彩な演奏が楽しめます。

演奏する楽器を決める

1. ⑬ (TONE/トーン) を押します。



2. ⑰ (数字、+ ボタン) を押して、音色番号を入力します。

液晶画面に番号と楽器の名前が表示されますので、好きな楽器を選びます。

- 数字ボタンで入力するときは、3桁で入力してください。

例: 001なら、“0” → “0” → “1” と入力します。

メモ

- 音色の一覧は別紙「Appendix」をご覧ください。
- ドラムセットの音色が選ばれていると、鍵盤ごとにさまざまな打楽器が鳴ります。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ楽器の音色が出ます。



ピアノやオルガンの音色で弾く

⑳ を押すと、本機をピアノやオルガンの音色で弾くのに適した状態にすることができます。㉓ を押すごとに、ピアノ(音色番号001)とオルガン(音色番号079)が交互に切り替わります。

音色以外の設定も、下記のように切り替わります。

リバーブ	: “06”
トランスポーズ	: 00
タッチレスポンス	: オフのとき:初期値(タイプ1) オンのとき:変更なし
ペダルの効果	: サステイン
リズム番号	: ピアノの場合“161”(Pno8Beat)、 オルガンの場合“094”(S.Gospel)
自動伴奏	: リズムパートのみ
ローカルコントロール	: オン
ドラムアサイン	: オフ
スプリット	: オフ
レイヤー	: オフ
コーラス	: オフ
オクターブシフト(アッパー)	: 0
オートハーモナイズ	: オフ
アルペジエーター	: オフ
スケール	: 平均律

2つの音色を重ねてみよう (レイヤー)

2つの音色を重ねて音を出すことができます。2種類のピアノの音を重ねて新しいピアノの音をつくったり、ピアノとストリングスの音をミックスするなど、多彩な音で演奏ができます。

1. 2つの音色うち一方の音色を選びます。

⑬ (TONE/トーン) を押してから、⑰ (数字、-+ボタン) で音色番号を入力します。

例: 音色032 “ELEC.PIANO 1” を選ぶ。



2. ⑳ を押します。



点灯します

3. ⑰ (数字、-+ボタン) を押して、もう一方の音色番号を入力します。

例: 音色205 “STRINGS” を選ぶ。



4. 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ2つの音色が重なって音が出ます。

5. もう一度 ㉓ を押すと、1音色だけが出る設定に戻ります。

- ㉓ を押すたびに、1音色が出る設定と2音色が出る設定が切り替わります。

鍵盤の高音域と低音域で音色を変えてみよう(スプリット)

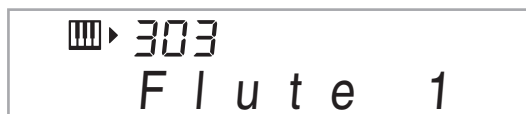
鍵盤を右手側と左手側に分けて、それぞれを違う音色で鳴らすことができます。左手をピラフォン、右手をフルートにして1人でアンサンブル演奏をするなど、さまざまな演奏ができます。

2つの音色を決める

1. 右側の鍵盤の音色を選びます(12ページ)。

⑬ (TONE/トーン) を押してから、⑰ (数字、-+ボタン) で音色番号を入力します。

例: 音色303 “FLUTE 1” を選ぶ。



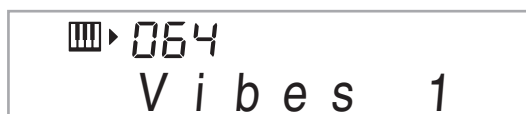
2. ㉒ を押します。



点灯します

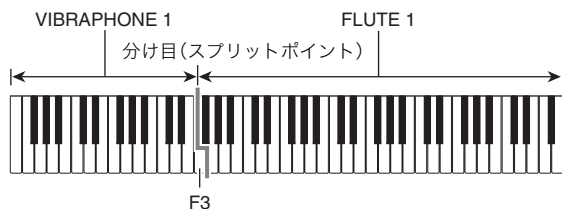
3. ⑰ (数字、-+ボタン) を押して、左側の鍵盤の音色番号を入力します。

例: 音色064 “VIBRAPHONE 1” を選ぶ。



4. 鍵盤を弾いてみましょう。

左右の鍵盤で選んだそれぞれの音が出ます。



5. もう一度 ㉒ を押すと、1音色だけ出る設定に戻ります。

- ㉒ を押すごとに、1音色が出る設定と2音色が出る設定を切り替えます。

メモ

- レイヤーをオンにしているときにスプリットをオンに設定すると、右側の鍵盤だけがレイヤーの状態でも演奏できるようになります。

音色の分け目を変える(スプリットポイント)

1. 24 を押しながら、音色の分け目の鍵盤を押します。押しした鍵盤が右側鍵盤の一番低い音の出る鍵盤になります。
例：中央のド(C4鍵)を指定した場合

鍵盤名が表示されます



響くような音で弾いてみよう (リバーブ)

リバーブを使うと音に残響音を加えることができます。この楽器では残響音の長さを変えることができますので、一味違った演奏をしてみましょう。

1. 29 (FUNCTION/機能) を押し、17 (数字、-+ ボタン) の[4] (←) または[6] (→) を使って液晶画面に“Reverb”と表示させます(6ページ)。



2. 17 (数字、-+ ボタン) の[-] または[+] を押し、残響音の長さを調整します。リバーブのタイプは下記の表のとおりです。

オフ(oFF)	リバーブ効果がかかりません。
1~10	数値が大きくなるほど残響が長くなります。



音に厚みをつけてみよう(コーラス)

コーラスとは音に厚みや広がりを加える機能のことです。1人で弾いても複数の楽器が鳴っているような効果が出せます。

1. 29 (FUNCTION/機能) を押し、17 (数字、-+ ボタン) の[4] (←) または[6] (→) を使って液晶画面に“Chorus”と表示させます(6ページ)。



2. 17 (数字、-+ ボタン) の[-] または[+] を押し、コーラスのタイプを選びます。コーラスのタイプは1~5、またはオフを選びます。



- コーラス効果は音色によって差があります。

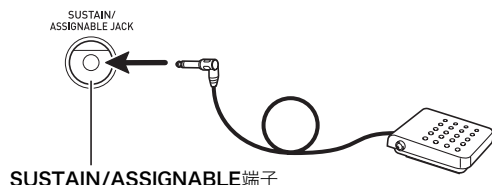
ペダルを使ってみよう

ペダルで演奏にさまざまな変化がつけられます。

- ペダルは本製品に付属されておりません。お買い求めの販売店で別途ご購入ください。

ペダルの接続

ペダル(別売品)を接続してください。



ペダルの効果を選ぶ

- 29 (FUNCTION/機能)を押して、17 (数字、-+ ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。

点滅します



- 17 (数字、-+ ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押します。
- 17 (数字、-+ ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“Jack”と表示させます。

J a c k

- 17 (数字、-+ ボタン)の[-]または[+]を押して、ペダル効果の種類を選びます。
 - ペダル効果の種類は下記の表のとおりです。

サステイン (SUS)	ペダルを踏んでいる間は弾いた音の余韻が長くなります。オルガンのような音色にすると、ペダルを踏んでいる間ずっと音が鳴り続けます。
ソステヌート (SoS)	鍵盤を押してからその鍵盤を離す前にペダルを踏むと、その音にだけサステインと同じ効果がかかります。
ソフト (SFt)	ペダルを踏んでいる間に弾いた音を若干小さくします。
リズム (rHy)	自動伴奏やソングの開始・停止を行います。

音の高さを変えて弾いてみよう (トランスポーズ、チューニング、 オクターブシフト)

半音単位で変える(トランスポーズ)

トランスポーズ機能とは、音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりする機能です。同じ鍵盤を弾いても、実際に出る音の調(キー)を歌う人の声の高さに合わせて移調して演奏することができます。

- トランスポーズの設定範囲は上下1オクターブ(-12から+12半音まで)です。

- 29 (FUNCTION/機能)を押します。

T r a n s .

- 17 (数字、-+ ボタン)の[-]または[+]を押して、移調するキーを決めます。

音の高さを微調整する(チューニング)

チューニング機能とは、音の高さを全体的に少しだけずらす機能です。他の楽器やCDの演奏と本機の音程が合わないときに微調整できます。

- チューニング機能では、A4の音の周波数を設定します。周波数の設定範囲は415.5~465.9Hz(初期値440.0)です。
- CDの演奏によっては、楽器のチューニングを微妙に変えて演奏されている場合もあります。

- 29 (FUNCTION/機能)を押して、17 (数字、-+ ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“Tune”と表示させます(6ページ)。

T u n e

- 17 (数字、-+ ボタン)の[-]または[+]を押して、チューニングを微調整します。
 - 上記の操作をすると、液晶画面の“Tune”が、下記の周波数表示に変わります。0.1Hz単位で変更することができます。

4 4 0 . 0 H z

- 上記の操作をしなくても、数秒経過すると自動的に周波数表示が変わります。

オクターブ単位で変える(オクターブシフト)

オクターブシフトとは鍵盤の音の高さを、オクターブ単位で上げたり下げたりできる機能です。設定範囲は上下2オクターブです。

- スプリット機能(13ページ)を使って演奏するときに、左右の鍵盤の音を適切な高さに調整できます。

1. 下記の液晶画面になるまで、**25**を押し続けます。
スプリット機能を使うときは、**25**を押す前にスプリットをオンしておきます。
 - しばらく何も操作をしないと、**25**を押す前の画面に戻ります。

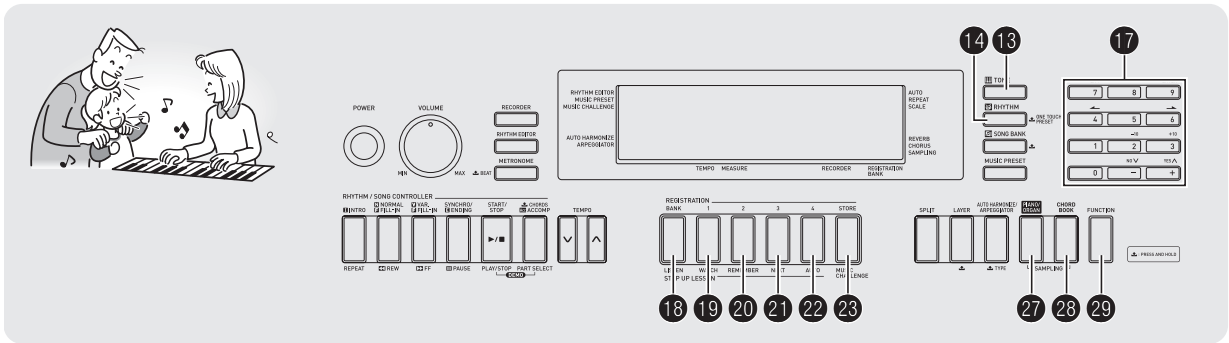
Oct Upper

2. **17**(数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、オクターブ単位で高さを調整します。
 - スプリットオンのとき: 右側の鍵盤が変わります。
 - スプリットオフのとき: 全部の鍵盤が変わります。
3. **25**を押します。
 - スプリットオンのとき:
以下の画面になりますので右側の鍵盤と同様に**17**(数字、-+ボタン)を押して、左側の鍵盤のオクターブを調整します。
 - スプリットオフのとき:
以下の画面になりますので、次の手順に進みます。

Oct Lower

4. もう一度**25**を押します。

好きな音を記録して弾いてみよう(サンプリング)



この楽器はマイクや携帯オーディオプレーヤーなどから好きな音を記録して、鍵盤で演奏することができます。たとえば、犬の鳴き声を記録して演奏すれば、犬の鳴き声でメロディーを奏することもできます。サンプリング機能を使ってオリジナリティあふれたサウンドを作りましょう。

接続と準備

重要

接続する前に、本機と外部機器(CTK-4200の場合)またはマイク(WK-220の場合)の電源を切ってください。

1. 外部機器(CTK-4200の場合)、またはマイク(WK-220の場合)を接続してください。

<CTK-4200>

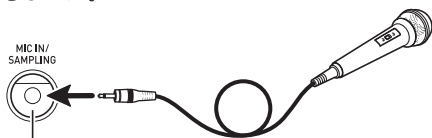
ステレオミニプラグ



本機のAUDIO IN端子

<WK-220>

AUDIO IN端子からサンプリング音を記録することはできません。



メモ

- 市販のダイナミックマイクがご使用になれます。
- 外部機器の接続には市販の接続コードがご使用できます。片側がステレオミニプラグ、もう一方は外部機器の入力端子に接続できるものをご用意ください。

2. 外部機器と本機の音量を小さくしておきます。

3. 外部機器、またはマイクの電源を入れてから、本機の電源を入れます。

- マイクを使うときは、**40 (MIC VOLUME)**でマイクからの音声レベルを調整しておきます。

メモ

- マイクは電源を入れて数秒後から使用してください。
- サンプリング音はモノラルで記録されます。

音を記録してメロディーを弾いてみよう(メロディーサンプリング)

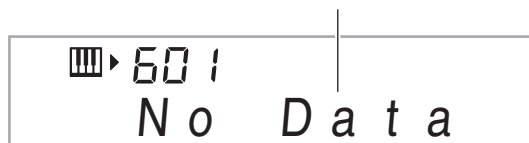
記録した音を鍵盤で鳴らしてメロディー演奏ができます。

- 音色番号601~605番の各番号に1種類ずつ音を保存して、全部で5種類まで記録することができます。また、記録した後からでも音色番号を選ぶとその番号に記録されている音呼び出すことができます。

音を記録する

1. **13 (TONE/トーン)**を押して、**17 (数字、-+ボタン)**で音色番号601~605番のなかで音を記録したい番号を選びます。

音が記録されていない場合

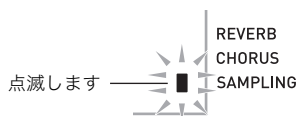


点灯します REVERB
CHORUS
SAMPLING

2. 27と28を同時に押します。

記録待機の状態になります。
液晶画面にサンプリング可能な時間(秒)が表示されてから、下記の表示に変わります。

Waiting

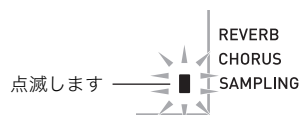


3. CTK-4200の場合は外部機器から、WK-220の場合はマイクに向けて、音を出します。

自動的に記録がはじまります。

- 音量が小さすぎると記録を開始しません。

Sampling



4. 記録したい音が鳴り終わったら、27と28を同時に押します。

記録を終了します。

- 27と28を押さなくても、外部機器やマイクから本機に入力される音がなくなると自動的に記録を終了します。また、記録開始から10秒経過すると自動的に記録を終了します。

601
S1:Orgnl

サンプルドローン1

使用している
メモリー量 150 170 メモリーの残り量
(単位: キロバイト)

5. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

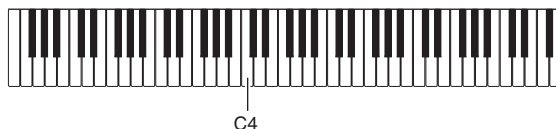
- 本機のメモリーの残りが少なくなると、記録可能な時間が10秒よりも短くなったり、記録できなくなったりする場合があります。その場合には、すでに記録しているデータをいくつか消去してメモリーの残りを増やすと、10秒間の記録ができるようになります(「記録した音を消去する」23ページ)。

重要

- 音を記録すると、その音色番号に以前記録されていたデータは消去されます。間違えてデータを消去しないようにするには、「記録した音を誤って消さないように保護する」(23ページ)をご参照ください。

■ 記録した音と同じ高さ(ピッチ)の音について

中央のド(C4)鍵盤で出る音が記録したままの音声です。C4を中心に上下の鍵盤を押すと記録したデータの音の高さを変えて音を出します。

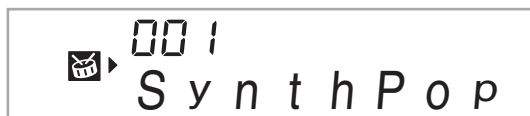


記録した音を自動で繰り返し鳴らす

メロディーサンプリングで記録した音を繰り返し再生させて、それに合わせて演奏することができます。

1. **14** (RHYTHM/リズム)を押します。

2. **27**と**29**を同時に押します。
繰り返し再生の待機状態になります。



3. **19**～**23**のなかで、再生したいメロディーサンプリング音色の番号に対応したボタンを押します。
繰り返し再生がはじまります。

再生したいサンプリング音色の番号	押すボタン
601	19
602	20
603	21
604	22
605	23

4. 同じボタンをもう一度押すと、再生を停止します。

5. **18**を押すと手順2の前の状態に戻ります。

繰り返し再生の音量を変える

サンプリング音を繰り返し再生させるときの音量を調整することができます。

1. 音量を変えたいサンプリング音色の番号に対応したボタン(**19**～**23**)を押します。

- 繰り返し再生がはじまります。

2. 同じボタンを押し続けながら、いずれかの鍵盤を押します。

- 鍵盤を素早く押すほど音量が大きくなり、ゆっくり押すほど小さくなります。

3. 適度な音量になったら、ボタンを離します。

記録した音にさまざまな効果をつける

サンプリングした音にさまざまな効果をつけて音を出します。

1. **13** (TONE/トーン)を押して、**17** (数字、-+ボタン)でメロディーサンプリング音色の番号(601～605番)のなかから、効果をつけたい音色の番号を選びます。

2. **13** (TONE/トーン)を押して下記の表から効果のタイプを選びます。

13 (TONE/トーン)を押すことに、以下のようにタイプが変わります。

タイプ名 (表示名)	効果の内容
Original (Orgnl)	効果はかかりません。
Loop 1 (Loop1)	サンプリングした音が繰り返し鳴ります。
Loop 2 (Loop2)	鍵盤を離した後に、音の余韻のピッチが上がります。
Loop 3 (Loop3)	鍵盤を離した後に、音の余韻のピッチが下がります。
Pitch 1 (Ptch1)	だんだんピッチが高くなっていきます。
Pitch 2 (Ptch2)	だんだんピッチが低くなっていきます。
Pitch 3 (Ptch3)	だんだんピッチが低くなっていきます。鍵盤を離すと音の余韻のピッチが上がります。
Tremolo (Trem1)	音量が大きくなったり小さくなったりを繰り返します。
Funny 1 (Funy1)	ビブラートがかかり、ゆれ幅がだんだん大きくなります。
Funny 2 (Funy2)	ピッチが上がったり下がったりを繰り返します。
Funny 3 (Funy3)	ビブラートがかかり、だんだんピッチが高くなっていきます。

- “Original”以外の10種類の効果を選んだときは、鍵盤を押している間、サンプリングした音が繰り返し鳴り続けます。
- 手順1では、繰り返し再生しているサンプリング音色(19ページ)と同じ音色番号は選ばないようにしてください。同じ番号を選んだ場合には、“Loop 1”の効果がかかります。

音を記録してドラムセットに組み込んでみよう(ドラムサンプリング)

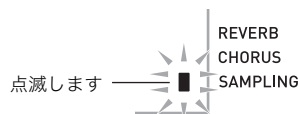
ドラムセット音色の各鍵盤の音をサンプリングで記録した音に変えることができます。

• 音色番号の606~608番の各番号に、変更したドラムセット音色(サンプリングドラムセット音色)を1種類ずつ保存して、全部で3種類まで記録することができます。また、記録した後からでも音色番号を選ぶとその番号に記録されている音を呼び出すことができます。

1. **14** (RHYTHM/リズム) を押します。
2. **13** (TONE/トーン) を押して、**17** (数字、-+ボタン) で音色の番号(606~608番)のなかから音を記録したい番号を選びます。

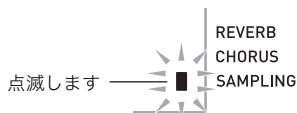


3. **27** と **28** を同時に押します。

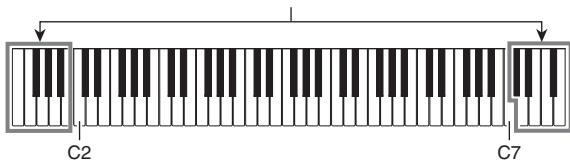


4. 音を記録したい鍵盤※を押します。

記録待機の状態になります。
液晶画面にサンプリング可能な時間(秒)が表示されてから、下記の表示に変わります。



※これらの鍵盤は使用できません。(WK-220のみ)

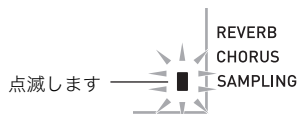


5. CTK-4200の場合は外部機器から、WK-220の場合はマイクに向けて、音を出します。

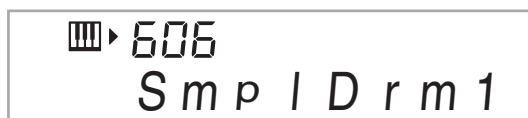
自動的に記録をはじめます。

- 音量が小さすぎると記録を開始しません。

S a m p l i n g



6. 記録したい音が鳴り終わったら、**27** と **28** を同時に押します。



使用しているメモリー量 — **150 170** — メモリーの残り量
(単位: キロバイト)

記録を終了します。

- **27** と **28** を押さなくても、外部機器やマイクから本機に入力される音がなくなると自動的に記録を終了します。また、記録開始から10秒経過した場合にも自動的に記録を終了します。

7. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ

- 手順3~6を繰り返すと、1つのサンプリングドラムセット音色で鍵盤ごとに違う音を記録することができます(8種類まで)。
- メモリーの残り量が少なくなると、記録可能な時間が10秒よりも短くなったり、記録できなくなったりする場合があります。その場合には、すでに記録しているデータをいくつか消去してメモリーの残り量を増やすと、10秒間の記録ができるようになります。「記録した音を消去する」23ページ)。

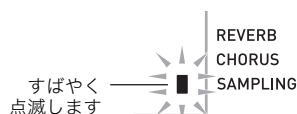
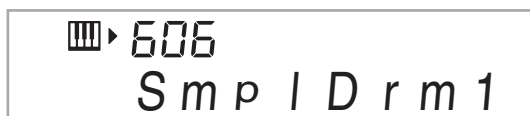
重要

- 音を記録すると、その鍵盤に以前記録されていたデータは消去されます。間違えてデータを消去しないようにするには、「記録した音を誤って消さないように保護する」(23ページ)をご参照ください。

サンプリングドラムセット音色の音を編集する

サンプリングドラムセット音色の鍵盤に記録された音を、そのドラムセットの他の鍵盤にコピーしたり、音の高さ(ピッチ)を変更したりすることができます。

1. **13** (TONE/トーン) を押して、**17** (数字、-+ボタン) でサンプリングドラムセット音色番号(606~608番)のなかから編集したい音色の番号を選びます。
2. **27** と **23** を同時に押します。
3. **29** (FUNCTION/機能) を押します。



編集ができる状態になります。

- この状態では以下の3種類の編集ができます。もう一度 **29** (FUNCTION/機能) を押すと編集の状態を終了して手順2の状態に戻ります。



音がすでに記録されている鍵盤が点灯します

記録した音を他の鍵盤にコピーするには

サンプリング音が記録されている鍵盤を押しながら、その音をコピーしたい鍵盤を押します。

例: C4鍵に記録した音をD4鍵にコピーした場合



音をコピーされた鍵盤が点灯します

- すでにサンプリング音が記録されている鍵盤は、コピー先に指定できません。

記録した音の高さを鍵盤ごとに変えるには

サンプリング音の高さを変えたい鍵盤を押しながら、**17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押します。

- -64から+63半音の範囲で、半音単位で音の高さを変更できます。

記録した音を鍵盤ごとで消去する

サンプリング音を消去したい鍵盤を押しながら、**14** を押すと画面に“DelSure?”と表示されますので、消去してよければ **17** (数字、-+ボタン)の[+] (YES/はい) を押します。キャンセルするには[-] (NO/いいえ) を押します。

- 消去された鍵盤の音色は、その鍵盤のオリジナル音色に戻ります。

例: D4鍵の音を消去した場合



サンプリングドラムセット音色で自動伴奏を鳴らす(ドラムアサイン)

自動伴奏のリズムパートの音色を、記録したサンプリングドラムセット音色に変えて鳴らすことができます。

1. **14** (RHYTHM/リズム) を押して、**17** (数字、-+ボタン) で自動伴奏のリズム番号を選びます。
 - ユーザーリズム(181~190番)は選ばないください。これらのリズム番号の自動伴奏はサンプリングドラムセット音色で鳴らすことができません。
2. **13** (TONE/トーン) を押して、**17** (数字、-+ボタン) で鳴らしたいサンプリングドラムセット音色の番号を選びます。
3. **13** (TONE/トーン) を押します。

手順1で選んだ自動伴奏のリズムパートが、手順2で選んだ音色で鳴るようになります。

 - もう一度 **13** (TONE/トーン) を押すと、その自動伴奏の本来の音色に戻ります。

メモ

- リズムパートのドラム音のうちいくつかは、サンプリングした音に変えることができない場合があります。

サンプリング機能を使いこなそう

記録を手動で開始する設定に変える

本機では音が入力されると自動的に記録が開始されますが、ボタンや鍵盤操作で記録を開始する設定に変更できます。鍵盤を弾いてからしばらくして音が出るようなデータを記録したいときなどは、この設定にします。

1. **29** (FUNCTION/機能)を押して、**17** (数字、-+ボタンの[4](←)または[6](→))を使って液晶画面に“SAMPLING”と表示させます(6ページ)。

点滅します



2. **17** (数字、-+ボタンの[9](ENTER/エンター))を押します。



3. **17** (数字、-+ボタンの[-])を押して、オフに設定します。

手動で記録をはじめられるようになります。

- メロディーサンプリング(17ページ)では、手順2で**27**と**28**を同時に押すと記録を開始します。
- ドラムサンプリング(20ページ)では、手順4で鍵盤を押してから離すと同時に記録を開始します。

入力音が消えても記録を続ける設定に変える

本機では入力音がなくなると自動的に記録が終わりますが、ボタンや鍵盤操作で記録を停止する設定に変更できます。記録する音の後に音のない部分を入れたい場合などは、この設定にします。

1. **29** (FUNCTION/機能)を押して、**17** (数字、-+ボタンの[4](←)または[6](→))を使って液晶画面に“SAMPLING”と表示させます(6ページ)。
2. **17** (数字、-+ボタンの[9](ENTER/エンター))を押します。
3. **17** (数字、-+ボタンの[6](→))を押します。



4. **17** (数字、-+ボタンの[-])を押して、オフに設定します。

外部機器やマイクからの入力が無くなって、下記の操作をするまでサンプリングが続きます。

- メロディーサンプリング(17ページ)
27と**28**を同時に押す。
- ドラムサンプリング(20ページ)
27と**28**を同時に押す。またはいずれかの鍵盤を押してから離す。

記録した音を消去する

記録したサンプリング音色の番号を指定して、その番号に記録されたデータをまとめて消去することができます。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押して、**17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “DELETE” と表示させます (6 ページ)。

点滅します



2. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。



使用している
メモリー量 — **150 170** —メモリーの残り量
(単位: キロバイト)

3. **17** (数字、-+ ボタン) の [-] または [+] を押して、消去したい音色の番号を選びます。
4. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。
消去を確認する画面が表示されます。



5. **17** (数字、-+ ボタン) の [+] (YES/はい) を押してください。
データが消去されます。消去をキャンセルする場合は [-] (NO/いいえ) または [7] (EXIT/戻る) を押してください。
 - 消去が終了すると画面に “Complete” が表示され、手順1の画面に戻ります。

重要

- サンプリングドラムセット音色の各鍵盤ごとのデータ消去の方法は、「サンプリングドラムセット音色の音を編集する」(21 ページ) をご参照ください。

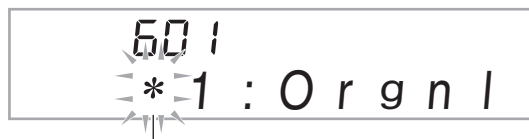
記録した音を誤って消さないように保護する

大切なデータを誤って消さないように、音色番号ごとにデータを保護することができます。

1. **13** (TONE/トーン) を押して、**17** (数字、-+ ボタン) で保護したいサンプリング音色の番号を選びます。
2. **29** (FUNCTION/機能) を押して、**17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “SAMPLING” と表示させます (6 ページ)。
3. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。
4. **17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “Protect” と表示させます。



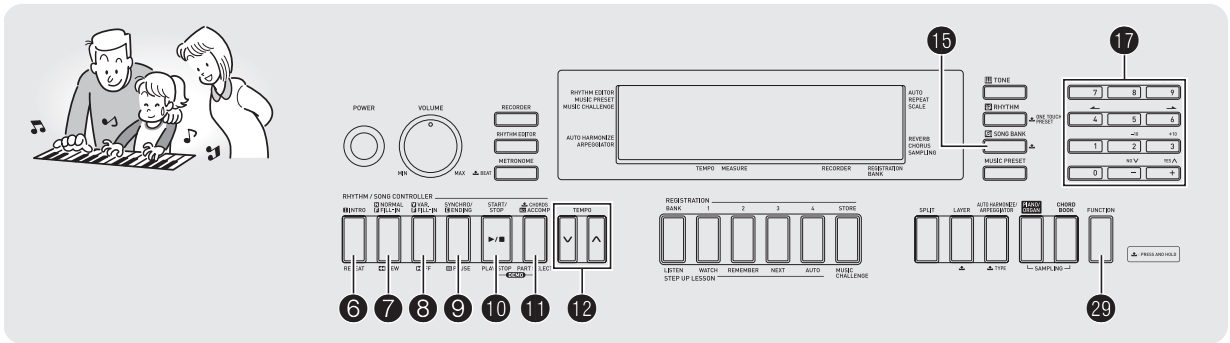
5. **17** (数字、-+ ボタン) の [+] を押して、オンに設定します。
手順1で選んだ音色が保護されて消去できなくなります。保護された音色は以下のように表示されます。



保護されています

- サンプリング音のデータを外部機器に保存するには「本機のデータをパソコンに保存する/本機のソングや自動伴奏を増やす」(55 ページ) をご参照ください。

ソング(内蔵曲)を鳴らそう



ソング(SONG)とはふつう「歌」のことを意味しますが、この楽器では曲データのことを指します。ソングを鳴らして聴いてみましょう。また、曲を聴くだけでなく曲に合わせて練習することもできます。

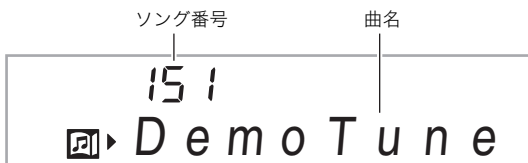
メモ

- この楽器にはソングを自動演奏させて鑑賞する機能だけでなく、自分で弾くための練習をサポートするレッスンシステム(27ページ)もあります。またパソコンでソングを増やす(55ページ)こともできます。

デモを聴いてみよう

ソング(内蔵曲)のなかで鑑賞用の曲を選んで再生します。

- 10**と**11**を同時に押します。
内蔵されているソングをデモ用の順番で再生を繰り返します。
 - 曲目は62ページをご参照ください。
 - デモは常に151番の曲からはじまります。



- デモ中に曲を変えるには、**17**(数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、曲番号を選びます(6ページ)。
選んだ曲番号のデモを開始します。
 - 17**(数字、-+ボタン)の数字ボタンで曲番号は選べません。
- デモを終了するには**10**を押します。
10を押すまでデモの全曲目を繰り返します。

ソングを1曲ずつ聴いてみよう

この楽器に内蔵されているソングの中から好きな曲を選んで聴くことや、外部機器から自分で増やした曲も聴くことができます。また、ソングに合わせて弾くこともできます。

スタート/ストップ

- 15**(SONG BANK/ソングバンク)を押します。



- 17**(数字、-+ボタン)を押して、好きなソングの番号を入力します。
 - ソングの一覧は62ページをご参照ください。
 - 数字ボタンで入力するときは、3桁で入力してください。
例: 001なら、「0」→「0」→「1」と入力します。

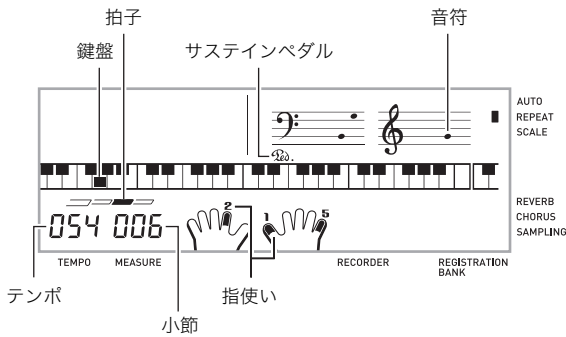
■「脳にキク」について

ソングの101~150番は、指のトレーニングのための曲集です。脳の活性化の効果も期待できます。

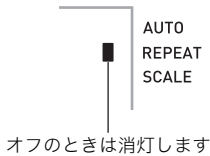
メモ

- 脳の活性化には個人差があります。
- 本機は医療機器ではありません。

3. **10**を押します。
ソング再生がスタートします。



4. もう一度 **10** を押すと、ソング再生を途中で止めることができます。
ソングは **10** を押すまでリピート再生します。リピートを解除するには **6** を押します。



一時停止、早送り、早戻し

音楽プレーヤーのように、ソングの一時停止や早送り・早戻しができます。

■一時停止

1. **9**を押します。
ソング再生を一時停止します。

2. もう一度 **9** を押すと、停止したところからソング再生を再開します。

■早送り

1. **8**を押します。
ソングを早送りします。**8**を1回押すと1小節先に進みます。押し続けると連続して小節を進めます。
• 曲の停止中に**8**を押すと、レッスン機能のフレーズ送りを行います(28ページ)。

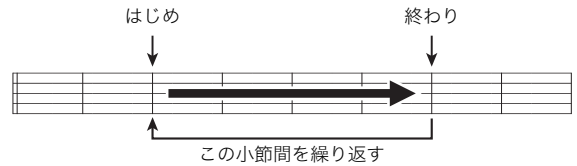


■早戻し

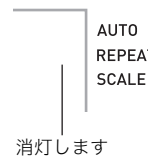
1. **7**を押します。
ソングを早戻しします。**7**を1回押すと1小節戻ります。押し続けると連続して小節を戻します。
• 曲の停止中に**7**を押すと、レッスン機能のフレーズ戻しを行います(28ページ)。

曲の小節間を繰り返す(リピート)

上手に演奏できないフレーズを何度も繰り返して練習してみましょう。繰り返したい箇所の、はじめの小節と終わりの小節を指定します。

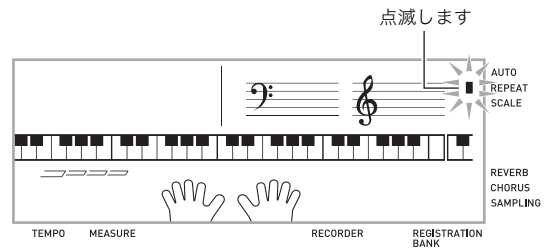


1. **6**を押して、曲のリピートを解除します。



2. ソングの再生中に、**6**を押してリピートするはじめの小節を指定します。

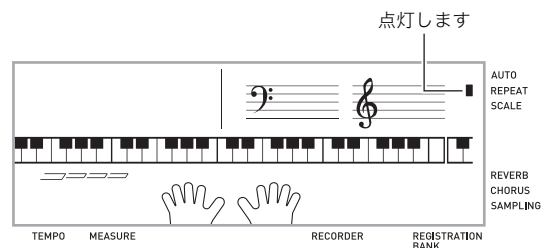
6を押したときの小節冒頭が指定されます。



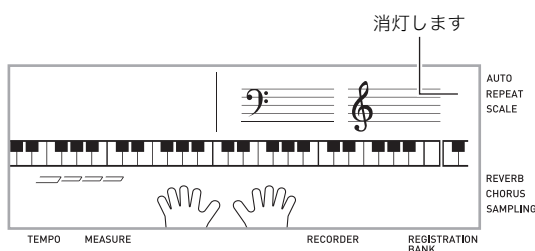
3. リピートしたいところまで曲が進んだら、もう一度 **6**を押して終わりの小節を指定します。

6を押したときの小節末尾が指定され、指定した小節間をリピート再生します。

- リピート再生中に**9**、**8**、**7**を押すと、リピート部分の一時停止、早送り、早戻しができます。



4. もう一度**6**を押すと、通常の演奏に戻ります。
ソング番号を変えるとリピート内容は消去されます。



速さ(テンポ)を変える

難しいフレーズはソング再生の速さ(テンポ)を変えて練習してみましょう。

1. **12**を押します。

▼を押すとテンポが遅くなり、▲を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。

- ▼▲を一緒に押すと、ソングのオリジナルテンポに戻ります。
- **12**を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。点滅中には**17**(数字、-+ボタン)でもテンポ数を変えることができます。しばらく何も操作しないと、元の表示に戻ります。
- ソング番号を変えると、ソングのオリジナルテンポに戻ります。

音量(ソングボリューム)を変える

自分で弾く音量とソング再生の音量のバランスを変えてみましょう。

1. **29**(FUNCTION/機能)を押して、**17**(数字、-+ボタンの[4](←)または[6](→))を使って液晶画面に“Song Vol”と表示させます(6ページ)。

S o n g V o l

2. **17**(数字、-+ボタンの)[-]または[+]を押して、ソングの音量を変えます。

ソングの音と同じ音色で弾いてみる

鍵盤の音色をソングと同じ音色にして、一緒に弾いてみましょう。

1. 液晶画面の音色名がそのソングの音色名に変わるまで、**15**(SONG BANK/ソングバンク)を押し続けます。

ソングの音色と同じ音色が選ばれているときは、液晶画面の音色名は変わりません。

2. ソング再生に合わせて弾いてみましょう。

メモ

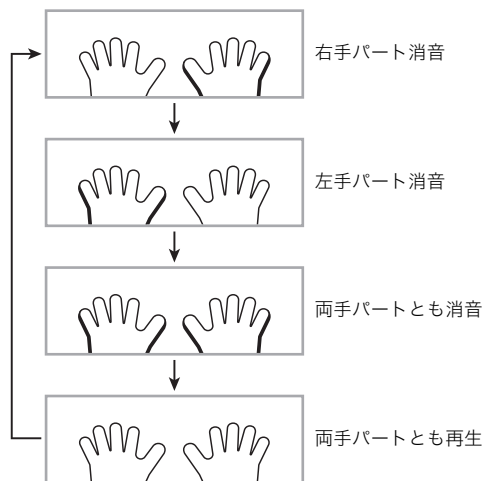
- 右手と左手で違う音色を使っているソングは、右手パートと同じ音色で弾けるようになります。

片手パートの音を消して練習する(パートセレクト)

ソングの右手パートと左手パートのうち、どちらか一方の音を消して、もう一方の音だけを再生することができます。最初から両手で弾くのは難しいと思ったら、一方のパートの音を消してもう一方のパート再生とあわせて練習してみましょう。

1. **11**を押して、ソングの音を消したいパートを選びます。

11を押すたびに、下記のようにパート選択が切り替わります。



2. **11**を押します。

選んだパートの音を消して、ソングを再生します。

メモ

- どちらか一方のパートの音を消して再生しているときは、消したパートの音だけが液晶画面に表示されます。

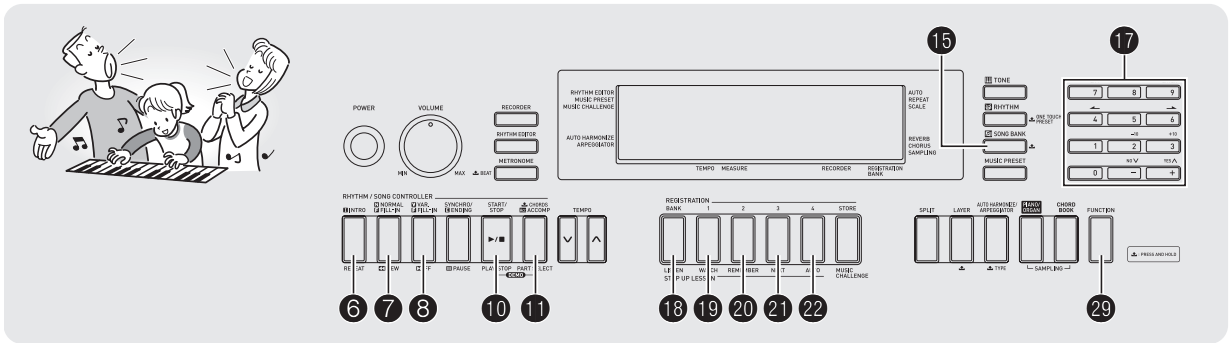
ソングを増やす(ユーザーソング)

お好きな曲をパソコンから本機のソング番号153～162(ユーザーソング)に読み込んで、再生やレッスン(27ページ)をすることができます。「本機のデータをパソコンに保存する/本機のソングや自動伴奏を増やす(55ページ)をご参照ください。

メモ

- 本機に保存したソングデータを消去する方法は52ページをご参照ください。

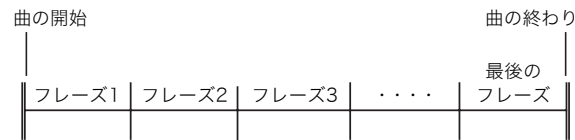
ソング(内蔵曲)で曲をマスターしよう



1曲を弾けるようになるまで、曲全体をいくつかの短い楽節(フレーズ)に分けてそれぞれのフレーズごとに練習した後、最後に全曲を練習する方法がより効果的です。このような練習を強力にサポートしてくれるシステム、それがステップアップレッスンです。

フレーズについて

この楽器に内蔵されている曲は、あらかじめ練習用のフレーズ(区間)に分けられています。



メモ

- 外部機器から読み込んで増やしたソング(26ページ)は、練習用のフレーズに分けられていない場合があります。これらのソングをフレーズに分けて練習したい場合は、31ページの「フレーズの長さを変える」をご参照ください。

ステップアップレッスンの流れ

曲のフレーズごとに右手、左手、両手の順にレッスンを進めます。すべてのフレーズを通して弾けるようになると1曲完成です。

フレーズ1

- 右手のレッスン1、2、3
- 左手のレッスン1、2、3
- 両手同時のレッスン1、2、3



フレーズ2、3、4...
最後のフレーズまで同じく練習。

全部のフレーズを覚えたら全曲を練習。

1曲完成!



レッスン中のメッセージ表示について

ステップアップレッスンでは、レッスンの進行をサポートするために、下記の5種類のメッセージが液晶画面に表示されません。

メッセージ	内容
<Phrase>	フレーズを選んだときや、レッスンを開始したときなどに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ただし一部のフレーズでは<Phrase>の代わりに下記の<Wait>が表示される場合があります。
<Wait>	ソングの前奏や間奏などの、練習する音符が含まれていないフレーズのレッスンを開始したときに表示されます。このフレーズでは再生が終わると自動的に次のフレーズに進みますので、鍵盤を弾かずに待ってください。
NextPhrs	次のフレーズへ自動的に進むときに表示されます。上記の<Wait>が表示されたフレーズの再生が終わったとき、あるいは自動ステップアップレッスン(31ページ)でこのメッセージが出てきます。
Listen Watch Remember	自動ステップアップレッスン(31ページ)で、レッスン1~3それぞれの開始時に表示されます。
From top	自動ステップアップレッスン(31ページ)のなかで、フレーズ1から今練習しているフレーズまでを通して練習する直前に表示されます。
Complete	自動ステップアップレッスン(31ページ)を終了したときに表示されます。

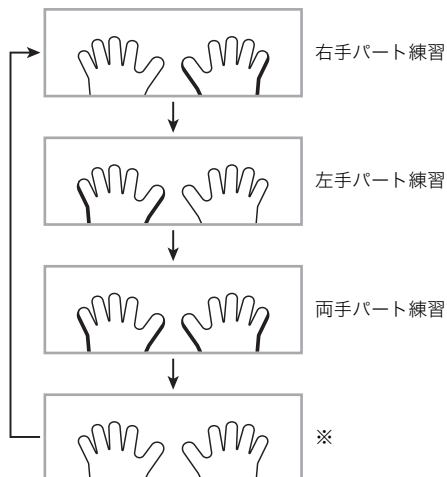
練習するソング、フレーズ、パートを選ぶ

最初に、練習するソング、フレーズ、パートを決めましょう。

1. 練習するソングを選びます(24ページ)。
ソングを選んだときは、最初のフレーズが選ばれます。
2. **21**(または**8**)を押すと、次のフレーズへ進み、**7**を押すと1つ前のフレーズに戻ります。
 - **8**または**7**を押し続けると、フレーズを連続して切り替えられます。
 - 本機では練習したソングの最後に練習したフレーズを20まで記憶します。そのフレーズを呼び出すには、そのソングを選んでから**21**を押し続けます。



3. **11**を押して、練習するパートを選びます。
11を押すたびに、下記のようにパート選択が切り替わります。



※ステップアップレッスン中に**11**を押した場合は、この画面を表示しないで右手パート練習に戻ります。

4. 液晶画面の音色名がそのソングの音色名に変わるまで、**15**(SONG BANK/ソングバンク)を押し続けます。
鍵盤の音がソングと同じ音色になります(26ページ)。

レッスン1～3をはじめよう

それではレッスンを始めましょう。最初に練習するソング、フレーズ、パートを選んでおきます。

レッスン1、お手本の演奏を聴く

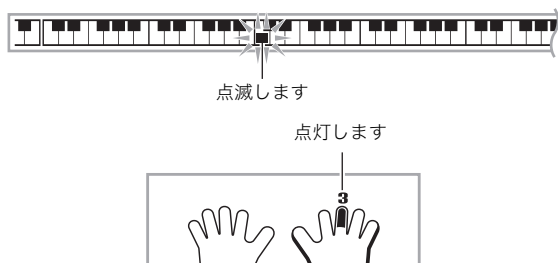
まずは、お手本の演奏を何度も聴いて曲を覚えましょう。

1. **18**を押します。
お手本の演奏がはじまります。
2. お手本の演奏を止めたい場合は**18**(または**10**)を押します。

レッスン2、表示のガイドを見ながら弾く

ソングを弾いてみましょう。液晶画面にこれから弾く鍵盤が表示されます。また、音声で指使いの番号をガイドします。ガイドに合わせて鍵盤を弾く練習をしましょう。間違えて押しても大丈夫です。正しい鍵盤を弾くまで曲の再生が一時停止してくれます。あせらずゆっくり弾いてみましょう。

1. **19**を押します。
レッスン2がはじまります。
2. 液晶画面表示と音声でガイドがはじまりますので、ガイドに合わせて鍵盤を弾く練習をしましょう。
液晶画面表示にはこれから弾く鍵盤がガイドされます。また、音声で指使いの番号をガイドします。



<レッスン2のガイドについて>

ガイドを参考にどの鍵盤をどの指で弾くのかを覚えて、タイミングを合わせて弾きます。



弾くタイミングがすぎても正しい鍵盤を弾かないと、曲が一時停止します

- 鍵盤表示が点滅から点灯に変わります。
- 正しい鍵盤を音でガイドします。
- 音声で指使いの番号をガイドします。



正しい鍵盤を弾くと、曲演奏が再開され、次の鍵盤が点滅ガイドされます。

3. レッスン2を止めたい場合は**19**(または**10**)を押します。

- 最後まで弾くとレッスン2の採点結果が表示されます。

Bravo!	合格です。次のレッスンへ進みましょう。
Again!	もう一度トライしましょう。

メモ

- 外部機器から読み込んで増やしたソング(26ページ)では、指使いの番号はガイドされない場合があります。

レッスン3、これまでの練習を思い出して弾く

正しい鍵盤を弾くまで曲が停止したままになる点はレッスン2と同じですが、次に弾く鍵盤の事前のガイドがありません。レッスン2までの練習を思い出しながら弾いてみましょう。

1. **20**を押します。
レッスン3がはじまります。
2. 曲に合わせて弾きます。

<レッスン3のガイドについて>

レッスン2で覚えた鍵盤を弾きます。



弾くタイミングがすぎても正しい鍵盤を弾かないと、曲が一時停止します。

- 正しい鍵盤を音でガイドします。



それでも正しい鍵盤を弾かないと、レッスン2と同様の液晶画面と音声によるガイドが出ます。



正しい鍵盤を弾くと、曲演奏が再開されます。

3. レッスン3を止めたい場合は**20**(または**10**)を押します。

- 最後まで弾くとレッスン2と同様に、レッスン3の採点結果が表示されます。

1曲を通して弾いてみる

レッスン1、2、3ですべてのフレーズが弾けるようになったら、最後に自動演奏に合わせて1曲弾いてみましょう。

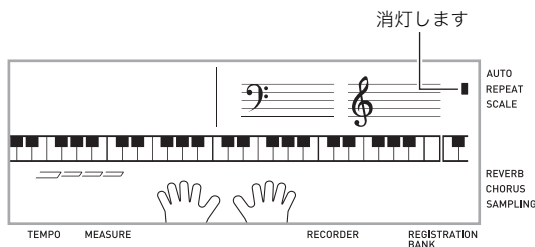
1. **11**を押してパートを両手オフにして、**10**を押します。
両手で弾いてみましょう。練習の成果はいかがですか?

レッスン中のさまざまな設定

フレーズを繰り返さないようにする

レッスン1からレッスン3で、練習しているフレーズを繰り返さないようにできます。

1. **6**を押します。
フレーズを繰り返さなくなります。



指番号の音声ガイドを消す

レッスン2、レッスン3での音声による指使い番号ガイドをオフにできます。

1. **29**(FUNCTION/機能)を押して、**17**(数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。



2. **17**(数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。



3. **17**(数字、-+ボタン)の[-]を押して、オフに設定します。

弾くべき音のガイドを消す

レッスン2、レッスン3での弾くべき音が鳴るガイドをオフにできます。

1. **29**(FUNCTION/機能)を押して、**17**(数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **17**(数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
3. **17**(数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“NoteGuid”と表示させます。



4. **17**(数字、-+ボタン)の[-]を押して、オフに設定します。

採点結果の表示を出さないようにする

レッスン2、レッスン3で表示される採点結果の表示機能をオフにできます。

1. **29**(FUNCTION/機能)を押して、**17**(数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **17**(数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
3. **17**(数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“Scoring”と表示させます。



4. **17**(数字、-+ボタン)の[-]を押して、オフに設定します。

フレーズの長さを変える

フレーズの長さを変えてレッスンしたり、フレーズに分けずにソング全体をはじめから終わりまで通してレッスンすることができます。

1. **29** (FUNCTION/機能)を押して、**17** (数字、-+ボタンの[4] (←)または[6] (→))を使って液晶画面に“LESSON”と表示させます(6ページ)。
2. **17** (数字、-+ボタンの[9] (ENTER/エンター))を押します。
3. **17** (数字、-+ボタンの[4] (←)または[6] (→))を使って液晶画面に“PhraseLn”と表示させます。

P h r a s e L n

4. **17** (数字、-+ボタンの[-]または[+])を押して、フレーズの長さを選びます。

オフ(oFF)	フレーズに分けずに、ソングのはじめから終わりまで通して練習できます。
プリセット(PrE)	ソングで指定されている長さ。

以下は外部から読み込んで増やしたソング(26ページ)にのみ有効です。

1(Ln1)	1小節で1フレーズ
2(Ln2)	2小節で1フレーズ
3(Ln3)	4小節で1フレーズ

自動的にレッスンを進めてみよう —自動ステップアップレッスン—

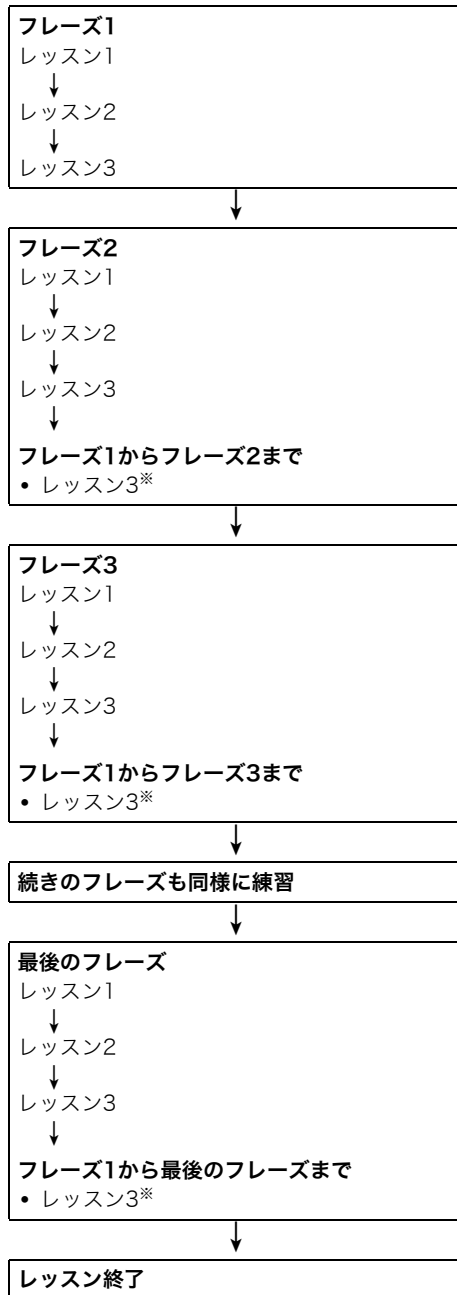
自動ステップアップレッスン機能を使えば、すべてのレッスンを本機にお任せで進められます。

1. 練習するソングとパートを選びます(24ページ)。
2. **22**を押します。
フレーズ1のお手本を聴くレッスンから開始します。
 - レッスン1では、1回のみお手本を自動演奏した後、レッスン2へ進みます。
3. レッスを最後まで合格すると、自動ステップアップレッスンを終了します。
 - レッスン2、レッスン3では、「Bravo!」の採点結果が出たら次のレッスンへ進みます。
 - レッスを中止する場合は、**22** (または**10**)を押します。

メモ

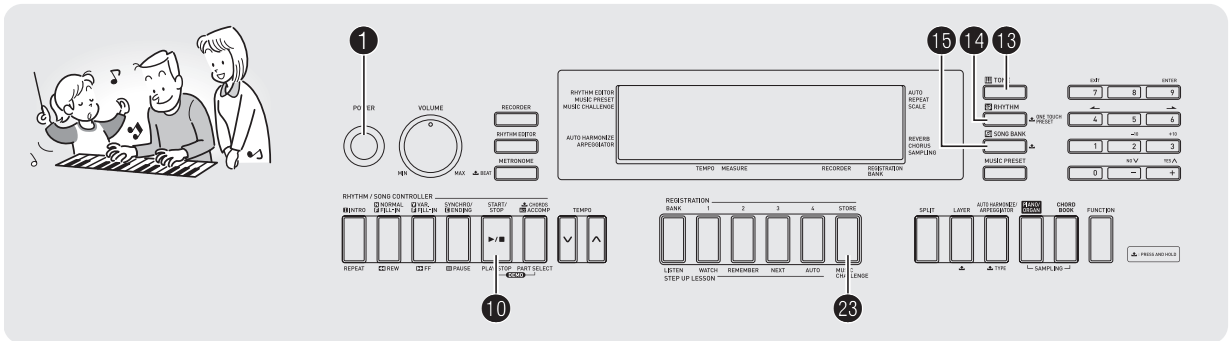
- 自動ステップアップレッスン中でも、**7**、**8**、または**18**～**21**を使ってレッスンやフレーズを変更できます。
- 自動ステップアップレッスンを開始すると、フレーズリピート設定(30ページ)、弾くべき音のガイド(30ページ)と採点結果表示(30ページ)は自動的にオンになります(レッスン中はオフにできません)。

■自動ステップアップレッスンの順序



※曲のはじめから練習したフレーズまでを通して弾くレッスン3です。このレッスン3は採点結果にかかわらず1回のみで終了して、次のフレーズのレッスンに進みます。

鍵盤ゲーム(ミュージックチャレンジ)

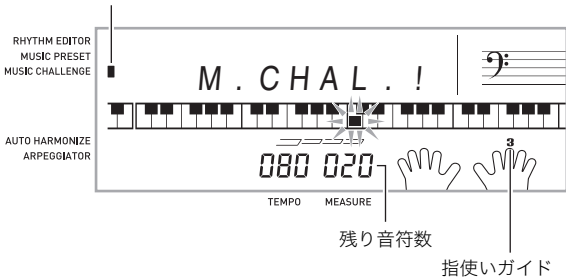


液晶画面の鍵盤ガイドと指使いガイドに合わせて、どれだけ速く反応して押せるかを競うゲームです。

1. 15 (SONG BANK/ソングバンク) を押します。
2. 23 を押します。

液晶画面の鍵盤ガイドが点滅しはじめます。鍵盤ゲーム曲のスタートです。

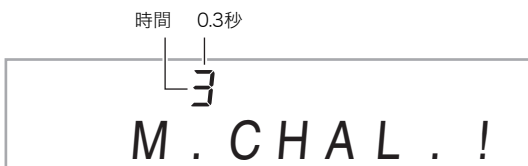
ゲーム中は点灯します



3. 液晶画面の鍵盤ガイドが点滅から点灯に変わった後に、ガイドされている指でできるだけ早くその鍵盤を押します。

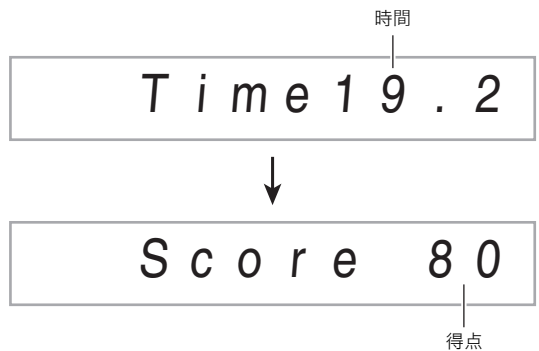
弾いた鍵盤ガイドが消えたら、1回クリアです。すぐに次の鍵盤ガイドが点滅しますので、続けて鍵盤を押してください。

- 鍵盤ガイドが点灯に変わってからその鍵盤を弾くまでの時間が表示されます(0.1秒単位)。表示される時間が短いほど判定結果が良くなります。
- 鍵盤ガイドが点滅から点灯に変わる前に弾いてしまった場合はクリアになりません。



4. 20回クリアするとゲームが終了します。

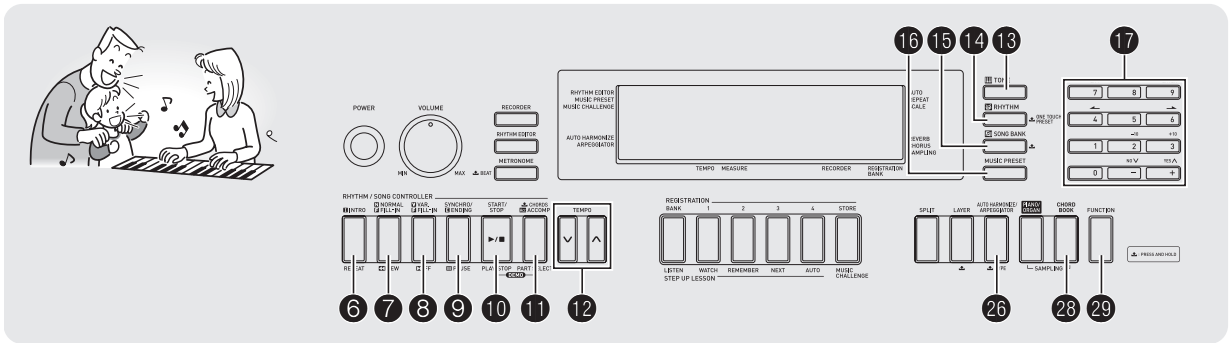
- 液晶画面表示に時間が表示されます。少したってから時間が得点表示に変わります。液晶画面の得点表示を消すには13、14、15のいずれかを押します。
- ゲームを中断したいときは23または10を押します。



メモ

- 音と指使いはゲームごとにランダムに選ばれます。
- ゲーム曲のテンポは変更できません。
- ゲーム中は1、10、23以外のボタンは使えません。

自動伴奏をバックに演奏しよう



自動伴奏機能とは、お好みの伴奏リズムを選び、左手でコード(和音)を押すだけで、選んだリズムにぴったりの伴奏が自動に鳴る機能です。1人でもアンサンブル演奏をお楽しみいただけます。

メモ

- 自動伴奏で鳴るパート(楽器)には、下記の3種類があります。
 - リズム(打楽器)
 - ベース(低音楽器)
 - ハーモニー(さまざまな楽器)

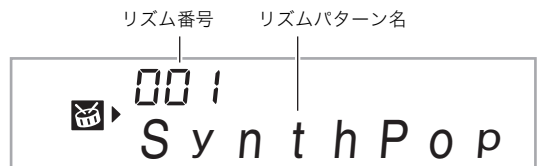
(1)だけを鳴らしたり、(1)～(3)の全楽器を同時に鳴らすこともできます。

リズムパートだけを鳴らそう

リズム(打楽器)は自動伴奏の土台となる重要なパートです。本機には8ビートやワルツなどさまざまな種類のリズムが内蔵されていますので、まずは基本となるリズムパートだけを聴いて、それに合わせて弾いてみましょう。

リズムパターンの選択とスタート/ストップ

- 14 (RHYTHM/リズム)を押します。



- 17 (数字、-+ボタン)でリズム番号を入力します。

- リズムの種類は別紙「Appendix」をご覧ください。
 - 数字ボタンで入力するときは、3桁で入力してください。
- 例: 001なら、「0」→「0」→「1」と入力します。

- 10 (または7)を押します。

リズムがスタートします。



- リズムに合わせて弾きましょう。

- もう一度10を押すとリズムがストップします。

すべてのパートを鳴らしてみよう

コードを付けて伴奏する

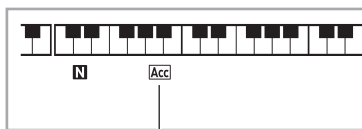
左手でコードを押さえると、選んだリズムにベースやハーモニーを加えた伴奏が自動的に演奏されます。1人で演奏してもバンド演奏のように楽しく演奏できます。

1. リズムパートの自動伴奏をスタートさせます。

2. **11**を押します。

左側の鍵盤でコードを入力できる状態になります。

コード入力鍵盤



点灯します

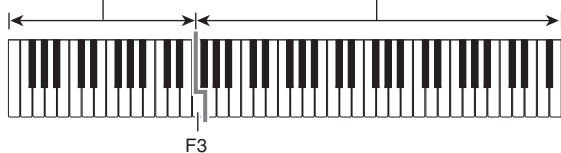
3. コード入力鍵盤でコードを押さえます。

ベースやハーモニーなど、リズムパート以外の楽器も鳴りはじめます(下図はWK-220の初期設定時のコード入力鍵盤範囲です)。

コード

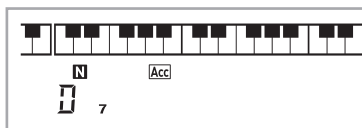
(メロディーは弾けません)

メロディー



例) コード入力鍵盤の「レ・ファ[#]・ラ・ド」を押さえる。

「レ・ファ[#]・ラ・ド」の和音(コード:D7)で伴奏が鳴ります。



4. 左手でいろいろなコードを押さえて、右手でメロディーを弾きましょう。

5. もう一度**11**を押すと、リズムだけの伴奏に戻ります。

メモ

- コードを押さえると同時に伴奏をスタートさせるには、「シンクロスタート」(37ページ)をご参照ください。
- スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えることができます(14ページ)。

コードの入力方法の選択

コードの入力方法は、以下の5種類から選べます。

- フィンガード1
- フィンガード2
- フィンガード3
- カシオコード
- フルレンジコード

1. 液晶画面にコードの入力方法の画面が表示されるまで、**11**を押し続けます。

コード入力方法



2. **17**(数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、コード入力方法を選びます。

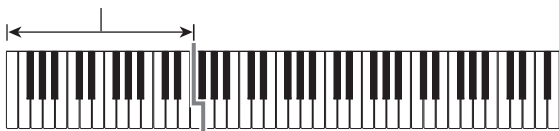
- 入力方法の画面は、しばらく何も操作をしないと元の画面に戻ります。

■フィンガード1、2、3について

これらは、コード構成音のままに鍵盤を押さえて入力する方法です(一部のコードでは構成音を省略して、1~2鍵でも入力できます)。

入力できるコードの種類と鍵盤の押さえかたについては、別紙「Appendix」をご覧ください。

コード入力鍵盤



●フィンガード1

コードの構成音の鍵盤を押さえます。



●フィンガード2

フィンガード1とは違い、6thの入力はできません。



●フィンガード3

フィンガード1とは違い、一番低い鍵盤の音をベース音として分数コードが入力できます。



■カシオコードについて

簡単な指使いで次の4種類のコードを演奏できます。



コード入力鍵盤



コードの種類	例
メジャーコード コード入力鍵盤の上側にアルファベットで音名が書いてあります。コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(コード入力鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。	C(Cメジャー)
マイナーコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。	Cm(Cマイナー)
セブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。	C7(Cセブンス)
マイナーセブンスコード メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。	Cm7 (Cマイナーセブンス)

メモ

- 2つ目以降の鍵盤は、1つめより右側なら白鍵・黒鍵を問わずどれでも使用できます。

■フルレンジコードについて

すべての鍵盤でコードの入力とメロディー演奏ができます。

入力できるコードの種類については、別紙「Appendix」をご覧ください。



コード入力・メロディー鍵盤



自動伴奏を使いこなそう

自動伴奏に変化をつけて演奏する

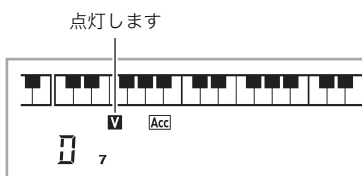
自動伴奏にメリハリをつけて演奏できます。気の利いたイントロから入る、サビ前をぐっと盛り上げる、おしゃれなエンディングをつけるなど、自動伴奏をさまざまに彩る演出機能を使いこなしましょう。

■バリエーション(伴奏パターンの変形)

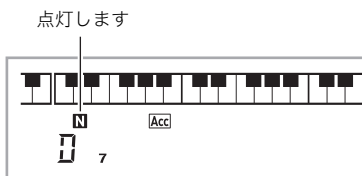
ノーマルパターン(基本)の演奏を変化させたバリエーションパターンです。基本パターンとは一味違った演出ができます。

1. ⑧を押します。

バリエーションパターンがスタートします。



2. ⑦を押すと、ノーマルパターンの演奏に戻ります。



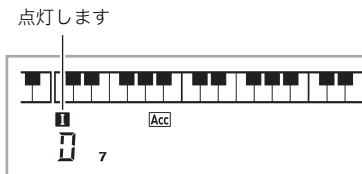
■イントロ(前奏)

数小節のイントロを入れます。

1. ⑥を押します。

イントロがスタートします。イントロ演奏の後、通常のパターン演奏になります。

- イントロ演奏中に⑥を押した場合は、イントロ終了後にバリエーションパターン演奏になります。



■変化フレーズ(フィルイン)

曲の途中にフィルインを入れます。

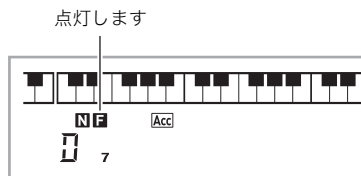
- フィルインとは、曲調の切れ目に入れる短いフレーズのことです。メロディーとメロディーのつなぎ目やアクセントとして使ったとき、とても華やかな演奏になります。
- ノーマル、バリエーションのそれぞれに違ったフィルインパターンがあります。

●ノーマル・フィルイン

1. ノーマルパターン演奏中に、⑦を押します。

ノーマルパターンのフィルインが演奏されます。

- フィルイン終了後にノーマルパターン演奏に戻ります。

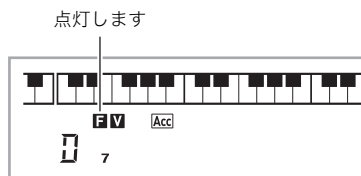


●バリエーション・フィルイン

1. バリエーションパターン演奏中に、⑧を押します。

バリエーションパターンのフィルインが演奏されます。

- フィルイン終了後にバリエーションパターン演奏に戻ります。

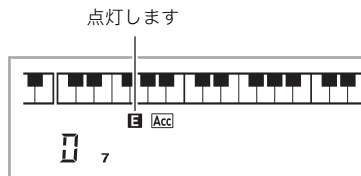


■エンディング(終わり)

数小節のエンディングパターンを入れます。

1. 自動伴奏の演奏中に、⑨を押します。

エンディングパターンが演奏され、自動的に伴奏が停止します。

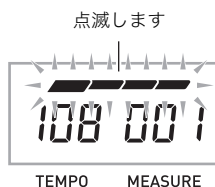


■ シンクロスタート(演奏と同時に伴奏をスタートする)

鍵盤を押すタイミングと同時に、伴奏をスタートさせることができます。

1. ⑨を押します。

伴奏スタート待機の状態になります。



2. 鍵盤でコードを押さえます。

同時にフルパート伴奏(ノーマル)がスタートします。

シンクロ待機中に以下の操作をしておくと、ノーマル以外のパターンで開始できます。

- イントロからはじめたいとき → ⑥を押します。
- パリエーションからはじめたいとき → ⑧を押します。

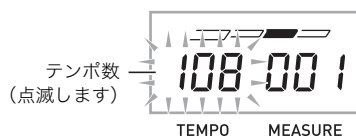
テンポ(速さ)を変える

自分の弾きやすいテンポに変えてみましょう。

1. ⑫を押します。

▼を押すとテンポが遅くなり、▲を押すとテンポが速くなります。押し続けると連続して変えられます。

- ▼▲を一緒に押すと、そのとき選ばれているリズムの初期値に戻ります。
- ⑫を押すと画面のテンポ数表示が点滅をはじめます。点滅中には⑰(数字、-+ボタン)でもテンポ数を変えられます。
- しばらく何も操作をしないと、元の表示に戻ります。



自動伴奏の音量を変える

自分で弾く音量と自動伴奏の音量のバランスを変えてみましょう。

1. ⑲(FUNCTION/機能)を押して、⑰(数字、-+ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“AcompVol”と表示させます(6ページ)。

A c o m p V o l

2. ⑰(数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、伴奏の音量を変えます。

お勧めの音色やテンポにする (ワンタッチプリセット)

ワンタッチプリセットとは、リズムパターンごとにそのリズムによく合った音色やテンポを、ワンタッチで呼び出すことができる機能です。

1. 液晶画面表示が音色の表示になるまで、⑭(RHYTHM/リズム)をしばらく押し続けます。鍵盤の音色やテンポなどが現在選択されているリズムに対応した設定にセットされます。
2. 鍵盤でコードを押さえて演奏します。伴奏も同時にスタートします。

メロディーの音に和音をつけてみよう (オートハーモナイズ)

右手で弾いているメロディーに適した和音を自動でつけます。メロディーに厚みをつけて演奏してみましょう。12種類のオートハーモナイズのタイプから演奏に合ったタイプを選んでみましょう。

メモ

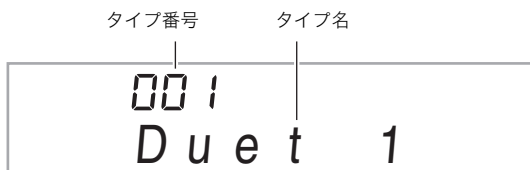
- オートハーモナイズ機能は、アルペジエーター(51ページ)と同じボタン $\text{\textcircled{26}}$ で操作します。2つの機能を同時に使うことはできません。

1. $\text{\textcircled{11}}$ を押して、コードをつけて伴奏を鳴らせるようにします(34ページ)。

- コード入力の方法がフルレンジコードに設定されているときは、オートハーモナイズは使えません。他のコード入力方法に変更してください。

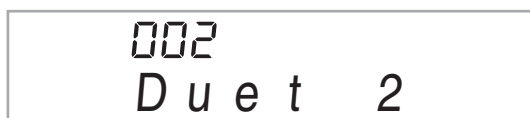
2. 画面にオートハーモナイズ、またはアルペジエーターのタイプ番号とタイプ名が表示されるまで、 $\text{\textcircled{26}}$ を押し続けます。

- しばらく何も操作をしないと、元の表示に戻ります。



3. $\text{\textcircled{17}}$ (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、オートハーモナイズのタイプを選びます。

- タイプ番号013~102はアルペジエーター用のタイプですので、ここでは選ばないようにしてください。

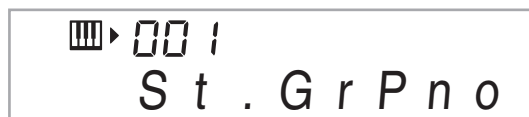


タイプ番号	タイプ名	内容
001	Duet 1	演奏したメロディーの下に、クローズな(2~4度ほど離れた)ハーモニーを1音加えます。
002	Duet 2	演奏したメロディー音の下に、オープンな(4~6度以上離れた)ハーモニーを1音加えます。
003	Country	カントリーの演奏に適したハーモニーを加えます。
004	Octave	1オクターブ下の音を加えます。
005	5th	5度上の音を加えます。
006	3-Way Open	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のオープンハーモニーを加えます。
007	3-Way Close	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のクローズハーモニーを加えます。
008	Strings	ストリングス演奏に適したハーモニーを加えます。
009	4-Way Open	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のオープンハーモニーを加えます。
010	4-Way Close	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のクローズハーモニーを加えます。
011	Block	ブロックコード音を加えます。
012	Big Band	ビッグバンド演奏に適したハーモニーを加えます。

4. $\text{\textcircled{26}}$ を押してオートハーモナイズをオンにします。

左手でコードを弾きながら右手でメロディーを弾くと、メロディーの音にハーモニーが加わります。

- もう一度 $\text{\textcircled{26}}$ を押すと、オートハーモナイズがオフに戻ります。



AUTO HARMONIZE
ARPEGGIATOR

■ — オンのとき点灯します

コード(和音)の音を調べる (コードブック)

楽譜のコードネームを見て、コードの構成音や鍵盤の押さえ方が分からないときに、本機能を使って調べることができます。

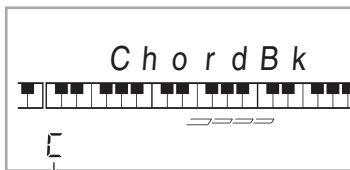
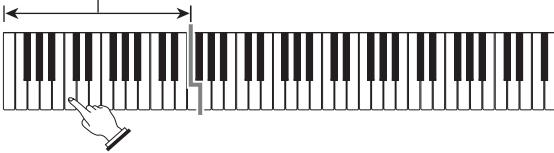
1. **28**を押します。

C h o r d B k

2. 下記の入力鍵盤で、調べたいコードのルート音(根音)を指定します。

例: Cを選ぶ場合

入力鍵盤

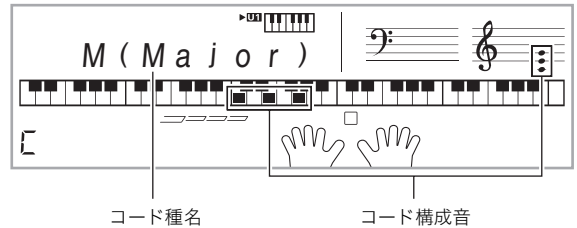


ルート音

3. **17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、コードの種類を選びます。

選んだコードの音が鳴り、コード種名と構成音が液晶画面に表示されます。

例: M(メジャー)を選んだ場合



- コードの種類は、下記のなかから選ぶことができます。

M(Major), m(minor), dim, aug, sus4, sus2, 7th, m7, M7, m7⁵, 7⁵, 7sus4, add9, madd9, mM7, dim7, 6⁹, 6th, m6

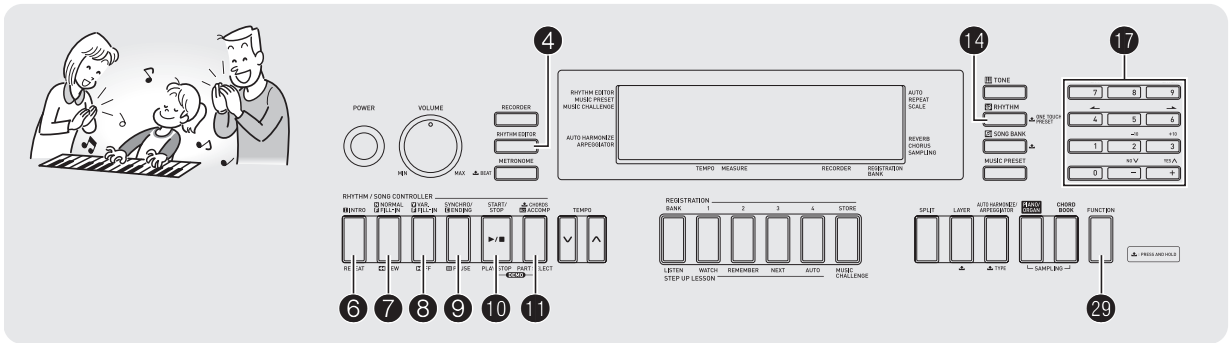
- 転回形を表示させるには、**17** (数字、-+ボタン)の[0]~[4]を押します。

この転回形にするには…	これを押します
基本形	0
第一転回形	1
第二転回形	2
第三転回形	3
第四転回形	4

4. 調べ終わったら、**28**を押して、コードブックを終了します。

- 13** (TONE/トーン)、**14** (RHYTHM/リズム)、**15** (SONG BANK/ソングバンク)、**16**でもコードブックを終了することができます。

自動伴奏を編集してみよう



本機にあらかじめ記録されている自動伴奏を編集して、自分だけのオリジナル伴奏(ユーザーリズム)を作ってみましょう。

- 編集した伴奏パターンはリズム番号181~190に10種類まで保存できます。

■編集できる伴奏パターンと楽器パートについて

本機の自動伴奏編集では、一つのリズム番号に対して以下をそれぞれ編集することができます。

伴奏パターン(イントロ、フィルインなど):6種類
楽器パート(ドラム、ベースなど):8種類

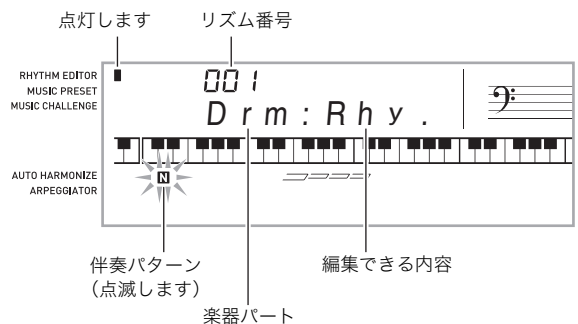
楽器パート	伴奏パターン						選択ボタン
	イントロ	ノーマル	ノーマル・フィルイン	バリエーション	バリエーション・フィルイン	エンディング	
	I	N	NF	V	VF	E	
1 ドラム	I-1	N-1	NF-1	V-1	VF-1	E-1	11
2 パーカッション	I-2	N-2	NF-2	V-2	VF-2	E-2	
3 ベース	I-3	N-3	NF-3	V-3	VF-3	E-3	
4 コード1	I-4	N-4	NF-4	V-4	VF-4	E-4	
5 コード2	I-5	N-5	NF-5	V-5	VF-5	E-5	
6 コード3	I-6	N-6	NF-6	V-6	VF-6	E-6	
7 コード4	I-7	N-7	NF-7	V-7	VF-7	E-7	
8 コード5	I-8	N-8	NF-8	V-8	VF-8	E-8	

■編集できる内容

- リズム番号
- パートオン/オフ
- 音色番号
- 音量
- 左右のスピーカーの音量調整(パンニング)
- リバーブのかかり具合(リバーブセンド)
- コーラスのかかり具合(コーラスセンド)

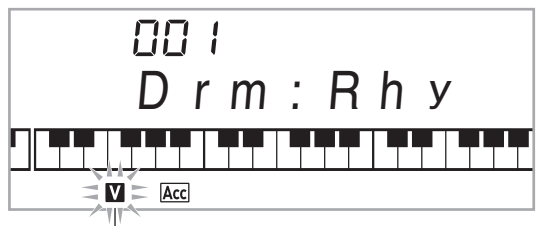
編集して保存する

1. 編集したいリズム番号を選びます。
2. 4を押します。



液晶画面に「Err Mem Full」と表示された場合の対処方法については、61ページの「エラーメッセージ一覧」をご参照ください。

3. 6~9を押して、編集したい伴奏パターンの種類を選びます。
選んだパターンの名前が表示されます。



8でバリエーションを選んだ場合

各ボタンで選べるパターン

- 6: イントロ
- 7: ノーマル、またはノーマル・フィルイン
(押すたびに切り替わります)
- 8: バリエーション、またはバリエーション・フィルイン
(押すたびに切り替わります)
- 9: エンディング

4. **11** を押して、編集したい楽器パートを選びます。
選んだ楽器パートの番号が表示されます。



5. **14** (RHYTHM/リズム) を押します。
リズム名が表示されます。

6. **17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、選んだ楽器パートに割り当てたいリズム番号を選びます。

- 楽器パートごとに、別のリズム番号を割り当てられます。
- **10** を押すと、現在表示されているリズム番号の自動伴奏を再生します。
 - イントロの8つの楽器パート(I-1~8)はすべて共通のリズム番号になります(たとえばI-1にリズム003を割り当てると、I-2~8も自動的にリズム003になります)。その後I-2を編集するときにリズムを004に変えると、さきほど設定したI-1のリズムも004に変わってしまいます。またイントロと同様に、エンディングのE-1~8も共通のリズム番号になります。

7. **29** (FUNCTION/機能)を何度か押して、編集したい設定の画面にします。

- **29** (FUNCTION/機能)を押すたびに設定の種類(1~6)が切り替わります。
- **17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、選んだ設定の値を決めます。
- **10** を押すと、現在の設定内容で編集パートを再生できます。

	設定の種類	表示設定	範囲
1	パートオン/オフ	Part	On/Off
2	音色番号*	Tone	001 ~ 583
3	音量	Vol.	000 ~ 127
4	左右スピーカーの音量調整(パンニング)	Pan	-64 ~ 0 ~ 63
5	リバーブのかかり具合(リバーブセンド)	Rvb	000 ~ 127
6	コーラスのかかり具合(コーラスセンド)	Cho.	000 ~ 127

※パート1,2にはドラムセット音色(584~600番)しか割り当てられません。

8. 手順4~7を繰り返して、3で選んだ伴奏パターンの編集を完了させます。

9. 手順3~8を繰り返して、伴奏パターン(イントロ~エンディング)の編集を完了させます。

10. **4** を押します。

編集した内容を保存するかどうか確認する画面が表示されます。

- 11-1. 編集した自動伴奏を保存しないで編集を終了するには、**17** (数字、-+ボタン)の[-]を押します。

これまでに編集したデータを消去してよいかを確認する画面が表示されます。**17** (数字、-+ボタン)の[+]を押すと編集の操作を終了します。

- 11-2. 編集した自動伴奏を保存するには、**17** (数字、-+ボタン)の[+]を押します。



- **17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、編集内容を保存するリズム番号を選びます。
- 保存するリズムのユーザーリズム名を編集できます。**17** (数字、-+ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を押して画面のリズム名の変えたい文字を選んで、[-]と[+]で文字を変更します。

!	"	#	\$	%	&	'	()	
*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=
>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
¥]	^	_	`	a	b	c	d	e
f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
z	{		}						

12. ⑰ (数字、-+ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押します。

保存してよいかを確認する画面が表示されます。

- ⑰ (数字、-+ボタン)の[+]を押すと、保存を実行します。
- ⑰ (数字、-+ボタン)の[-]を押すと、[9] (ENTER/エンター)を押す前の画面に戻ります。

重要

- すでにデータを保存してあるリズム番号に新しいデータを保存すると、それまで保存していたデータは消去されます。

メモ

- 自動伴奏を編集しているときは、鍵盤の音色を変えることはできません。

■ユーザーリズムのデータを外部機器に保存するには

「本機のデータをパソコンに保存する/本機のソングや自動伴奏を増やす」(55ページ)をご参照ください。

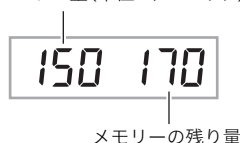
保存したデータを消去する

以下の操作は自動伴奏の編集の途中では、消去できません。

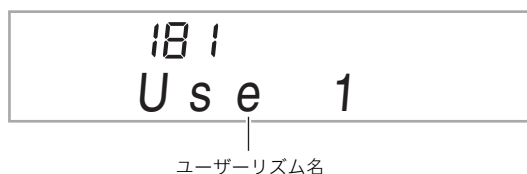
1. ⑲ (FUNCTION/機能)を押して、⑰ (数字、-+ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



使用しているメモリー量(単位:キロバイト)



2. ⑰ (数字、-+ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押します。
3. ⑰ (数字、-+ボタン)の[6] (→)を押します。

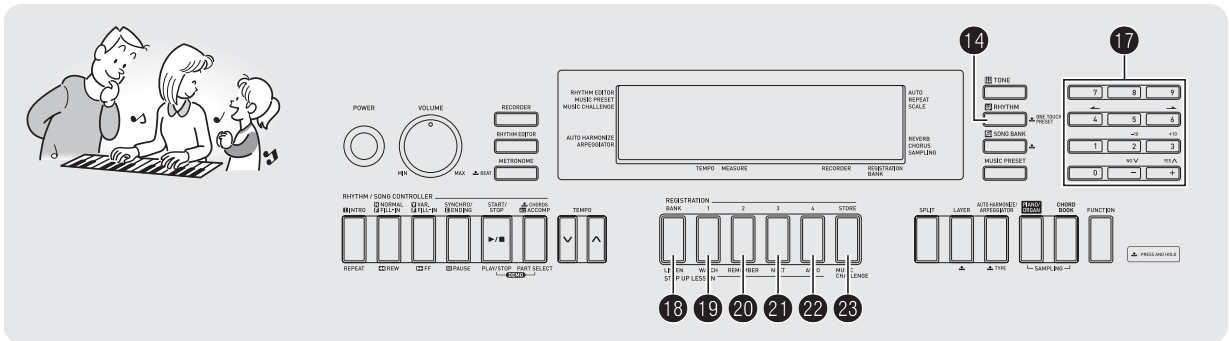


4. ⑰ (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、消去したいユーザーリズムを選びます。
5. ⑰ (数字、-+ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押します。
消去を確認する画面が表示されます。



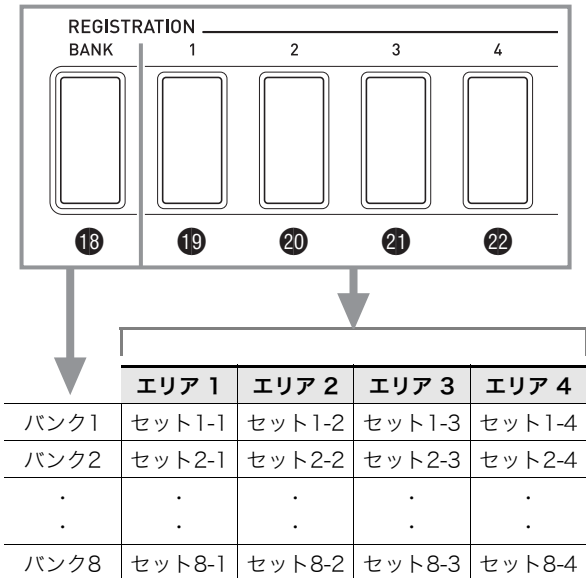
6. ⑰ (数字、-+ボタン)の[+] (YES/はい)を押してください。
消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+] (YES/はい)を押さずに、[-] (NO/いいえ)または[7] (EXIT/戻る)を押してください。

設定を登録しよう(レジストレーション)



レジストレーション機能を使うと、音色やリズムなどの設定を一つのセットとして登録できます。さらにその設定はすぐに呼び出すこともできます。演奏中に次々と音色やリズムを切り替えていくような曲にもチャレンジしてみましょう。

設定内容は32セットまで登録できます。セットを選ぶには**18**、および**19**～**22**を使います。



- バンクセレクトボタン**18**を押すごとに、バンク1～8の間で切り替わります。
- **19**～**22**のいずれかのボタンを押すと、現在選択されているバンクに対応したエリアを選択できます。

■登録の例

登録データは以下ようになります。

例：バンク1、セット1-1～セット1-3に登録する。

演奏する曲のうち、最初のメロディーの設定をバンク1のセット1-1に登録します。2番目のメロディーの設定をバンク1のセット1-2に、3番目のメロディーの設定をバンク1のセット1-3に登録します。

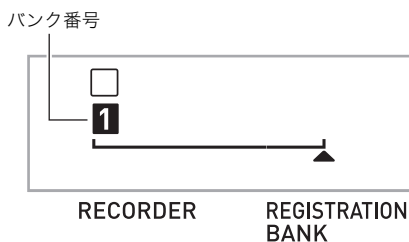
	セット 1-1	セット 1-2	セット 1-3
音色番号	001	062	001
リズム番号	118	005	089
テンポ	080	140	089

■登録できる内容

- 音色番号(メイン、レイヤー、スプリット)
- リズム番号
- テンポ
- オートハーモナイズ
- トランスポーズ
- スプリットポイント
- タッチレスポンス
- オクターブシフト
- コード入力方式
- 伴奏の音量
- アルペジエーター(オン/オフ、タイプ)
- シンクロスタート
- リバーブ(オン/オフ、タイプ)
- コーラス(オン/オフ、タイプ)
- アカンプ(オン/オフ)
- アルペジエーターホールド(オン/オフ)
- レイヤー(オン/オフ)
- スプリット(オン/オフ)
- ペダルの効果

登録する

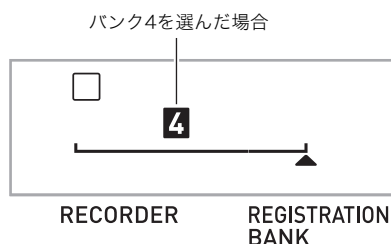
1. ⑭を押します。



2. 音色やリズム番号などを、登録したい内容に設定します。

3. ⑮を押して、登録するバンクを選びます。

⑮を押すことに、バンク番号が切り替わります。



- ⑮を押しながら⑰(数字、-+ボタン)の数字ボタンを押してバンクを選ぶこともできます。

4. ⑳を押しながら登録したいエリア⑲～㉒を押します。

手順2で設定した内容がひとつのセットとして登録されます。

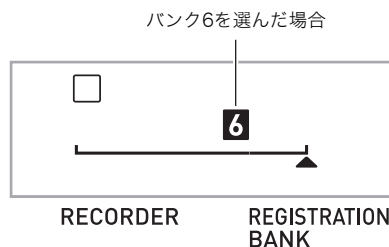
- 新しく登録をすると、以前にそのエリアに登録されていた内容は消去されます。



セット4-1として登録した場合

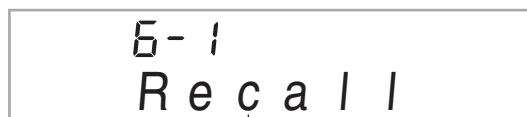
登録したデータを呼び出す

1. ⑮を押して、呼び出したいバンクを選びます。



2. 呼び出したいエリア⑲～㉒を押します。

登録されているセット内容が呼び出され、音色やテンポなどが自動的に切り替わります。



セット6-1を呼び出した場合

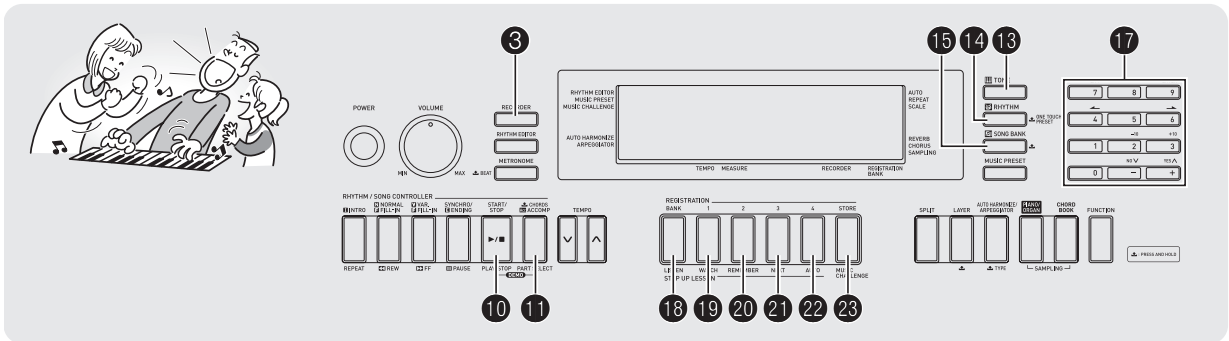
メモ

- オクターブシフト(16ページ)の設定を変えているデータを呼び出した場合、弾いている鍵盤の音が消えることがあります(ペダルで延ばしている音は鳴り続けます)。

登録したデータを外部機器に保存するには

「本機のデータをパソコンに保存する/本機のソングや自動伴奏を増やす」(55ページ)をご参照ください。

演奏を録音してみよう(レコーダー)



この楽器は自分の演奏した曲を録音して再生することができます。演奏をそのまま録音したり、片手ずつ録音したりできるので、練習にも役立ちます。

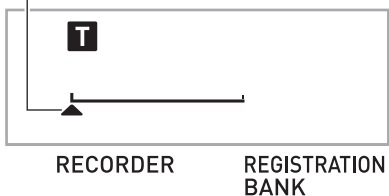
演奏を録音・再生する

弾いたそのままに演奏を録音してみましょう。

1. 14を押します。

2. 3を押します。

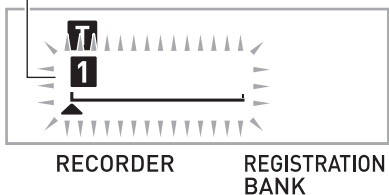
点灯します



3. 3をもう1回押します。

録音の待機状態になります。

点滅します



4. 音色やリズムの番号などを設定します。

5. 演奏をはじめます。

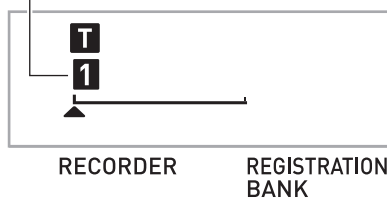
鍵盤を弾きはじめると、同時に録音が始まります。



- 自動伴奏を開始すると、自分の演奏と一緒に自動伴奏も録音することができます。

6. 録音を終了するには、10を押します。

点灯します

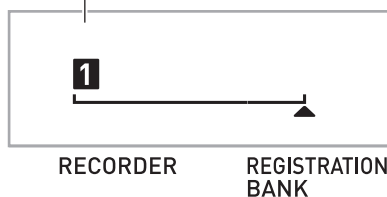


7. もう一度10を押すと録音した演奏の再生をします。

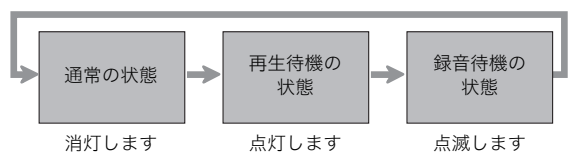
10を押すたびに再生と停止を繰り返します。

8. 通常の状態に戻すには、3を2回押します。

消灯します



- 録音できる残り音符数が100以下になると、手順3の液晶画面の点滅が速くなります。
- 録音できる音符数は、全体で約12000音符です。録音できる音符数を超えると録音が終了します。
- 3を押すたびに下記のように状態が切り替わります。再生の待機状態にして10を押すと、録音したデータを何度も聴くことができます。



■録音した曲の消去

手順3の操作をした後に、鍵盤を弾かないで**3**を押し続けると液晶画面に“Tr.Del?”と表示されますので[+] (YES/はい) を押します。

❗重要

- 録音中に本機の電源がオフになると、録音した内容は消去されます。
- 新しく録音すると、以前に録音した内容は消去されます。

パートごとに重ねて録音する・選んで再生する

曲をいくつかのパート(楽器ごとや、右手と左手など)に分けて、5回まで重ねて録音できます。

■録音トラックについて

各パートを録音するための記録部分をトラックといいます。トラックには1から6があります。

- トラック番号を設定しないで録音すると、トラック1に録音されます。

鍵盤演奏の他に以下が記録できます。

• トラック1に記録できる内容

- 番号や設定 : 音色番号、リズム番号、テンポ、リバーブ設定、コーラス設定、コード、レイヤー設定、スプリット設定、オートハーモナイズ/アルペジエーター設定

演奏中の操作 : ペダル、

- イントロボタン、
シンクロ/エンディングボタン、
ノーマル/フィルインボタン、
パリエーション/フィルインボタン

• トラック2~6に記録できる内容

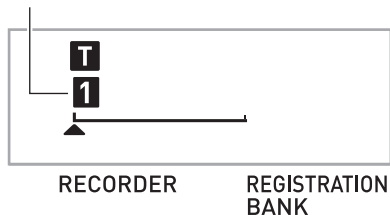
音色番号、ペダル操作

トラック1~6に録音する

1. トラック1に最初のパートを録音します。

トラック1の録音は「演奏を録音・再生する」(45ページ)の手順1~6をご参照ください。

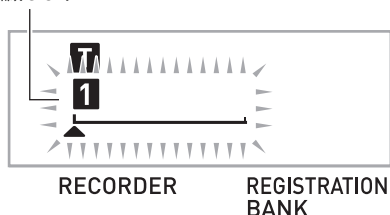
点灯します



2. **3**を押します。

録音の待機状態になります。

点滅します

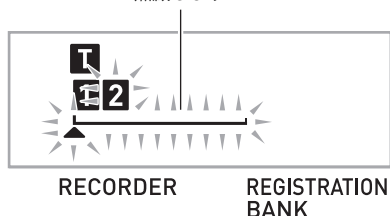


3. **19**~**23**のいずれかのボタンを押して、次に録音するトラック番号を選びます。

選んだトラックが録音待機状態になります。

例: トラック2を選んだ場合

点滅します



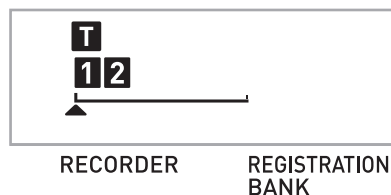
- トラック1と違う音色で録音したい場合は、**13**を押してから**17** (数字、+ボタン)で音色番号を入力します。

4. **10**を押します。

先に録音したトラック1の再生がはじまります。同時に録音がはじまりますので、再生に合わせて演奏をしましょう。

5. 演奏が終わったら**10**を押します。

- もう一度**10**を押すと録音した演奏の再生をします。
10を押すごとびに再生と停止を繰り返します。

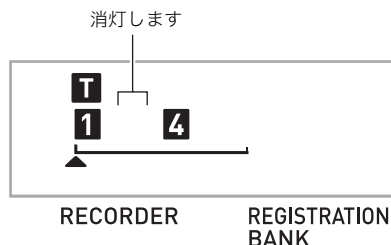
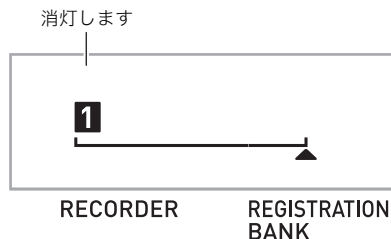


6. 手順2~5を繰り返して他のパートを録音します。

7. すべてのパートの録音が終わったら**10**を押します。

- 録音したトラックの再生がはじまります。**10**を押すごとに再生と停止を繰り返します。
- 18**~**23**の中で再生させたくないトラック番号のボタンを押すと、トラック番号が液晶画面の表示から消えて、そのトラックが再生されなくなります。このとき**3**を押して手順2に進むと、選んだトラックの音を鳴らさずに録音できます。

例: トラック2と3を選んだ場合

8. 通常の状態に戻すには、**3**を2回押します。

■録音したトラックの消去

手順3の操作をした後に、鍵盤を弾かないで**3**を押し続けると液晶画面に“Tr.Del?”と表示されますので[+](YES/はい)を押します。

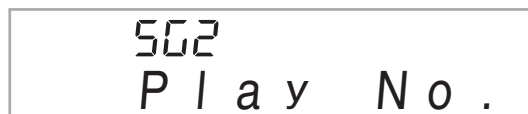
2曲以上録音する・選んで再生する

すでに録音した演奏データを消去せずに、演奏を5曲(ソング1~5)まで録音できます。また、曲を選んで再生できます。

1. **14**(RHYTHM/リズム)を押します。2. **3**を押します。

液晶画面の左上に曲番号がしばらく表示されますので**17**(数字、-+ボタン)を押して録音または、再生するソング番号を入力します(しばらく何も操作をしないと、曲番号が消えます)。

例: ソング2を選んだ場合

3. 録音するときは**3**、再生するときは**10**を押します。

録音または、再生を止めるには**10**を押します。

4. 通常の状態に戻すには、**3**を2回押します。

■録音した曲の消去

手順2の操作をした後に、鍵盤を弾かないで**3**を押し続けると液晶画面に“Song Del?”と表示されますので[+](YES/はい)を押します。

ソング(内蔵曲)と一緒に演奏して録音する

ソング(内蔵曲)に合わせて演奏して、それを録音することができます。

- 鍵盤演奏のほかに以下の操作や設定も記録できます。
音色番号、曲番号、ペダル操作、テンポ、リバーブ設定、コーラス設定、レイヤー設定、スプリット設定

メモ

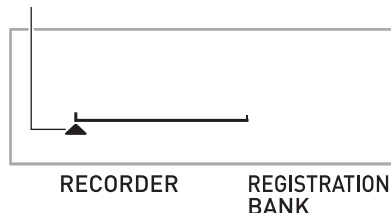
- ソングと一緒に録音できるのは1曲です。新しく録音すると、前に録音したデータは消去されます。

1. **15**を押します。

2. **3**を押します。

再生の待機状態になります。

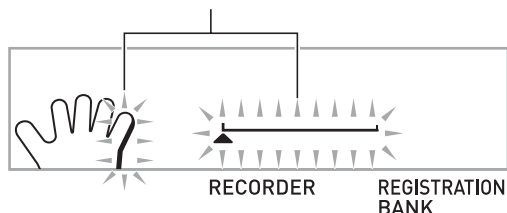
点灯します



3. もう一度 **3**を押します。

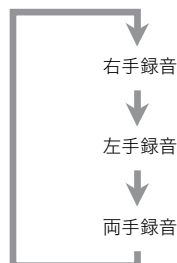
録音の待機状態になります。

点滅します



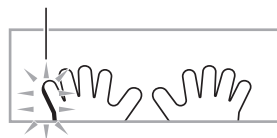
4. **17**(数字、-+ボタン)を押して、録音したいソングの曲番号を入力します。

5. **11**を押して録音するパートを選びます。



例: 左手パートを選んだ場合

点滅します



- 音色やテンポも設定しておきます。

6. **10**を押すと、ソングの再生と録音が始まります。

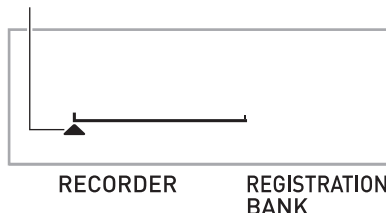
再生に合わせて演奏しましょう。

- 録音を途中で止めるには **10**を押します。

7. ソングの再生が終了すると、録音も自動的に終了します。

再生の待機状態になります。

点灯します



8. **10**を押します。

録音した演奏の再生が始まります。

- **10**を押すごとに再生と停止を繰り返します。

9. 通常の状態に戻すには、**3**を2回押します。

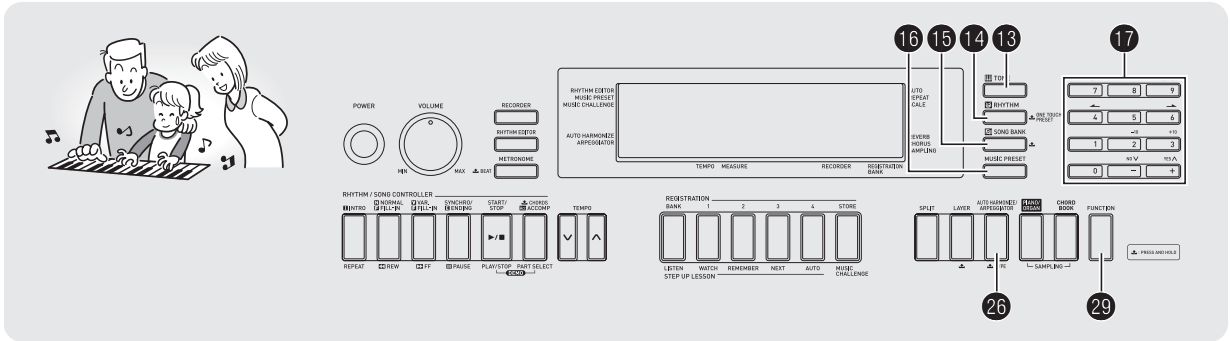
■ 録音した曲の消去

手順2の操作をした後に、**3**を押し続けると液晶画面に“Song Del?”と表示されますので[+] (YES/はい)を押します。

録音したデータを外部機器に保存する

録音したデータをパソコンに保存することができます。「本機のデータをパソコンに保存する/本機のソングや自動伴奏を増やす」(55ページ)をご参照ください。

本機をさらに使いこなすには



鍵盤の音律(スケール)を変えてみる

鍵盤の音律(スケール)を設定して通常の音律(12平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、古典クラシックなど)の演奏ができます。下記の17種類のプリセットスケールから、好きなスケールを選ぶことができます。

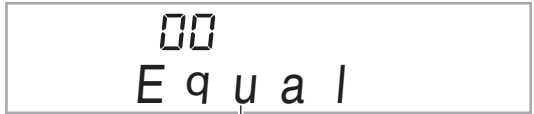
番号	スケール名	表示
00	平均律	Equal
01	純正律長調	PureMajr
02	純正律短調	PureMinr
03	ピタゴラス音律	Pythagor
04	キルンベルガー第三法	Kirnbrg3
05	ヴェルクマイスター 第1技法第3法	Wercmeis
06	ミーントーン(中全音律)	MeanTone
07	ラスト(Rast)	Rast
08	バヤティ(Bayati)	Bayati
09	ヒジャーズ(Hijaz)	Hijaz
10	サバ(Saba)	Saba
11	ダシュティ(Dashti)	Dashti
12	チャハルガー(Chahargah)	Chaharga
13	セガー(Segah)	Segah
14	グジャリ・トーディ(Gurjari Todi)	GujrTodi
15	チャンドラコونس (Chandrakauns)	Cndrkuns
16	チャルケシ(Charukeshi)	Carukesi

1. 14 (RHYTHM/リズム)を押します。
2. 29 (FUNCTION/機能)を押して、17 (数字、+ ボタン)の[4] (←)または[6] (→)を使って液晶画面に“SCALE”と表示させます(6ページ)。

点滅します



3. 17 (数字、+ ボタン)の[9] (ENTER/エンター)を押します。



スケール名

4. 17 (数字、+ ボタン)の[-]または[+]を押して、設定するスケールを選びます。
 - スケールを選んだら、次にルートキー(C~B)にしたい鍵盤を押して、ルートキーを設定します。
5. 29 (FUNCTION/機能)を押して設定を終了します。設定したスケールで演奏できるようになります。

設定したスケールで自動伴奏を鳴らしてみる

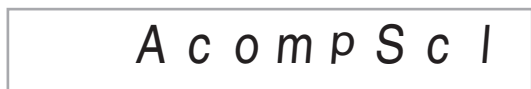
設定したスケールの音で自動伴奏を鳴らすことができます。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押して、**17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に "OTHER" と表示させます (6ページ)。

点滅します



2. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。
3. **17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を押して、液晶画面に "AcompSci" と表示させます。



4. **17** (数字、-+ ボタン) の [+] を押して、オンに設定します。

ミュージックプリセット

さまざまなジャンルや曲の演奏に適した音色番号やリズム番号などをワンタッチで設定します。

- プリセットのリスト (305種類) は、別紙「Appendix」を参照してください。

1. **16** を押します。



RHYTHM EDITOR
MUSIC PRESET
MUSIC CHALLENGE

点灯します

2. **17** (数字、-+ ボタン) を押して、プリセット番号を選びます。

音色やリズムなどの適した設定が呼び出されます。

- 自動伴奏のシンクロスタート待機中になります (37ページ)。
- **13** (TONE/トーン)、**14** (RHYTHM/リズム) または、**15** (SONG BANK/ソングバンク) を押すと、手順1で **16** を押す前の状態に戻ります。

3. 自動伴奏にあわせて曲を弾いてみましょう。

アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

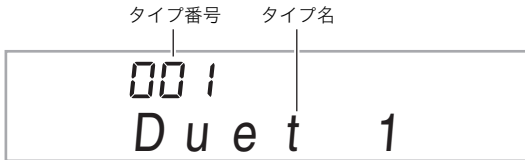
アルペジエーターを使うと鍵盤で押さえている音が、アルペジオ(分散和音)になって自動的に演奏されます。90種類のアルペジオタイプから演奏する曲に合ったアルペジオを選んでみましょう。

メモ

- アルペジエーター機能は、オートハーモナイズ(38ページ)と同じボタン $\text{\textcircled{26}}$ で操作します。2つの機能を同時に使うことはできません。

- 画面にオートハーモナイズ、またはアルペジエーターのタイプ番号とタイプ名が表示されるまで、 $\text{\textcircled{26}}$ を押し続けます。

- しばらく操作をしないと元の表示に戻ります。



- $\text{\textcircled{17}}$ (数字、+ボタン)の[+]または[-]を押して、タイプを選びます。

- タイプ番号001~012はオートハーモナイズ用のタイプですので、ここでは選ばないようにしてください。

オクターブ

- 押さえている鍵盤の音をそのままアルペジオにします。
- アルペジオの音域が、1オクターブ広がります。
- アルペジオの音域が、3オクターブ広がります。



- $\text{\textcircled{26}}$ を押してアルペジエーターをオンにします。鍵盤で和音を押さえると、アルペジオが鳴りはじめます。
 - もう一度 $\text{\textcircled{26}}$ を押すと、アルペジエーターがオフに戻ります。



AUTO HARMONIZE
ARPEGGIATOR

■ オンのとき点灯します

メモ

- テンポの変更はメトロノームのテンポを変える操作と同じです(11ページ)。

アルペジオを鳴らし続ける

和音を押さえている指を鍵盤から離れた後も、アルペジオが鳴り続けるようにすることができます。

- $\text{\textcircled{29}}$ (FUNCTION/機能)を押して、 $\text{\textcircled{17}}$ (数字、+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“OTHER”と表示させます(6ページ)。
- $\text{\textcircled{17}}$ (数字、+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。



- $\text{\textcircled{17}}$ (数字、+ボタン)の[+]を押して、オンに設定します。

タイプ番号	タイプ名	内容
013~030	Up	上行形
031~048	Down	下降形
049~066	U/D A	上行と下降を交互に繰り返すアルペジオのAタイプ
067~084	U/D B	上行と下降を交互に繰り返すアルペジオのBタイプ
085~102	Random	押さえている鍵盤の音をランダムな順番で鳴らす

ユーザーソングのデータを消去する

ソング番号153~162に保存したユーザーソングのデータを消去することができます。

1. **29** (FUNCTION/機能)を押して、**17** (数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



2. **17** (数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
3. **17** (数字、-+ボタン)の[6](→)を2回押します。



4. **17** (数字、-+ボタン)の[-]または[+]を押して、消去したいユーザーソングの番号を選びます。
5. **17** (数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
消去を確認する画面が表示されます。



6. **17** (数字、-+ボタン)の[+](YES/はい)を押してください。
消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+](YES/はい)を押さないで、[-](NO/いいえ)または[7](EXIT/戻る)を押してください。

本機に記録されているデータをまとめて消去する

サンプリングした音やユーザーソングなど本機で保存されているデータを、まとめて消去することができます。

⚠️ 重要

- この消去を実行すると、保護されているサンプリング音色のデータ(23ページ)も消去されます。大切なデータはパソコン(53ページ)に保存しておかれることをお勧めします。
- 録音した曲(45ページ)のデータは消去できません。

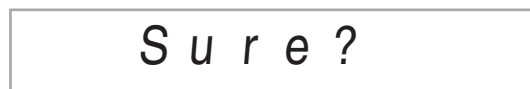
1. **29** (FUNCTION/機能)を押して、**17** (数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を使って液晶画面に“DELETE”と表示させます(6ページ)。



2. **17** (数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
3. **17** (数字、-+ボタン)の[4](←)または[6](→)を押して、“All Data”と表示させます。

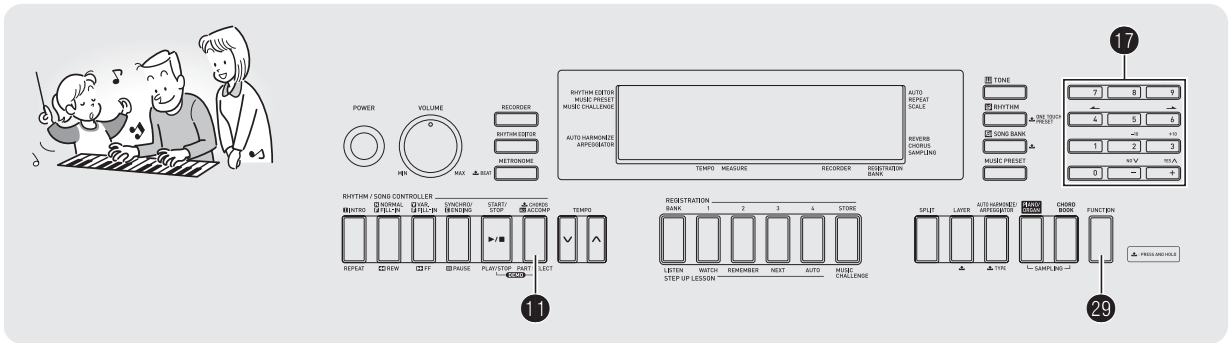


4. **17** (数字、-+ボタン)の[9](ENTER/エンター)を押します。
消去を確認する画面が表示されます。



5. **17** (数字、-+ボタン)の[+](YES/はい)を押してください。
消去が終了する画面上に“Complete”が表示され、手順2の画面に戻ります。
 - キャンセルするときは[+](YES/はい)を押さないで、[-](NO/いいえ)または[7](EXIT/戻る)を押してください。

他の外部機器と接続する



パソコンとの接続

この楽器とパソコンを接続して演奏情報(MIDIデータ)の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフトへ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

- 対応OS
 - Windows® XP(SP2以降)*1
 - Windows Vista® *2
 - Windows® 7 *3
 - Mac OS® X(10.3.9、10.4.11、10.5.8以降、10.6.6以降)
- *1: Windows XP Home Edition
Windows XP Professional (32bit版)
- *2: Windows Vista (32bit版)
- *3: Windows 7(32bit版、64bit版)

USB端子

重要

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

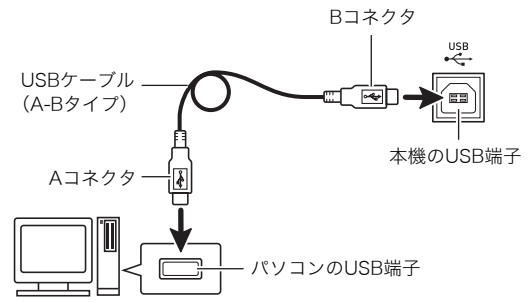
接続方法

重要

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。

2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。



3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。

4. パソコンの音楽ソフトを起動させます。

5. パソコンの音楽ソフトの設定で、MIDIデバイスとして下記のいずれかを選びます。

- CASIO USB-MIDI: (Windows 7、Windows Vista、Mac OS Xの場合)
- USB オーディオ デバイス: (Windows XPの場合)
- MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機はGM(General MIDI Level 1)に準拠しています。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。
<http://casio.jp/support/emi/>

各種MIDI設定

キーボードチャンネル

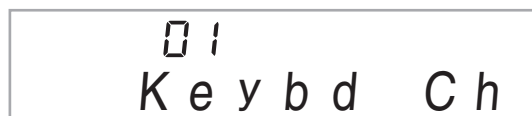
キーボードチャンネルとは、鍵盤演奏のデータをパソコンへ送信するチャンネルのことです。本機の鍵盤演奏のデータをパソコンに送信するチャンネルを選びます。

• キーボードチャンネルの設定範囲は01~16です。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押し、**17** (数字、-+ ボタン) の[4] (←) または[6] (→) を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。



2. **17** (数字、-+ ボタン) の[9] (ENTER/エンター) を押します。



3. **17** (数字、-+ ボタン) の[-] または[+] を押し、チャンネルを変えます。

ナビゲートチャンネル

パソコンから送られてきた曲の音符情報のなかで、特定のチャンネル(パート)の音だけを画面の表示でガイドさせることができます。このチャンネルのことをナビゲートチャンネルといいます。

■ナビゲートチャンネルを設定する

この楽器では、01~16チャンネルの中から、隣りあった2つのチャンネル(例:05と06)をナビゲートチャンネルとして設定できます。番号の小さい方のチャンネルをナビゲート(左)チャンネル、番号の大きい方のチャンネルをナビゲート(右)チャンネルといいます。ナビゲート(右)チャンネルを設定すると、自動的にナビゲート(左)チャンネルも設定されます。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押し、**17** (数字、-+ ボタン) の[4] (←) または[6] (→) を使って液晶画面に“MIDI”と表示させます(6ページ)。
2. **17** (数字、-+ ボタン) の[9] (ENTER/エンター) を押します。

3. **17** (数字、-+ ボタン) の[4] (←) または[6] (→) を使って液晶画面に“Navi. Ch”と表示させます。

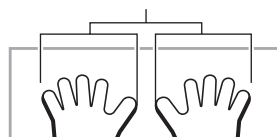


4. **17** (数字、-+ ボタン) の[-] または[+] を押し、ナビゲート(右)チャンネルを設定します。
ナビゲート(右)チャンネルの番号より1つ小さい番号のチャンネルが、自動でナビゲート(左)チャンネルに設定されます。

■ナビゲートチャンネルの音を消して鍵盤で演奏する
ナビゲートチャンネルとして設定した2つのチャンネルのうちどちらか片方、または両方のチャンネルの音を消して、自分で弾くことができます。

1. **11** を押し、音を消したいチャンネルを選びます。
11 を押すたびに、下表の(1)から(4)の状態が順に切り替わります。
 - 音を消したチャンネルのパートと同じ音色で鍵盤が弾けるようになります。両方のチャンネルとも音を消した場合(下表の(3))は、ナビゲート(右)チャンネルの音色になります。

選ばれたチャンネルが点灯します

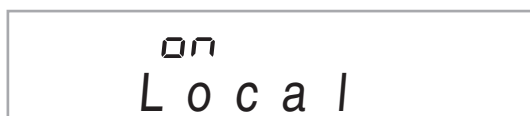


	ナビゲート(左)チャンネル		ナビゲート(右)チャンネル	
	発音	画面のガイド	発音	画面のガイド
(1) 右マークのみ点灯時	○	×	×	○
(2) 左マークのみ点灯時	×	○	○	×
(3) 左右両マーク点灯時	×	○	×	○
(4) 左右両マーク消灯時	○	○	○	○

ローカルコントロール

パソコンとデータを送受信している際に、弾いている鍵盤の音をこの楽器から出したい場合があります。ローカルコントロールの設定をオフにすれば弾いている鍵盤の音を消すことができます。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押し、**17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “MIDI” と表示させます (6 ページ)。
2. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。
3. **17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “Local” と表示させます。

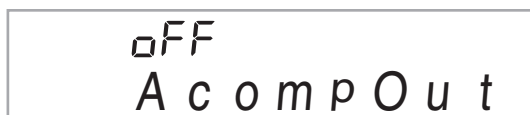


4. **17** (数字、-+ ボタン) の [-] を押し、オフに設定します。

アンプアウト

この設定をオンにすると、自動伴奏の演奏データをパソコンに送信します。

1. **29** (FUNCTION/機能) を押し、**17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “MIDI” と表示させます (6 ページ)。
2. **17** (数字、-+ ボタン) の [9] (ENTER/エンター) を押します。
3. **17** (数字、-+ ボタン) の [4] (←) または [6] (→) を使って液晶画面に “AcompOut” と表示させます。



4. **17** (数字、-+ ボタン) の [+] を押し、オンに設定します。

本機のデータをパソコンに保存する/ 本機のソングや自動伴奏を増やす

サンプリングした音や録音した曲などのデータをパソコンに転送して保存したり、そのデータをいつでも本機に転送して戻すことができます。また一般的な楽曲MIDIファイル(SMF)や、カシオのホームページからダウンロードしたソングや自動伴奏のデータを本機に転送すれば、ソングバンク曲や自動伴奏を増やすこともできます。

データの転送には、専用のアプリケーションソフト(データマネージャー)が必要です。

転送できるデータの種類について

本機はパソコンとの間で、下記のデータを転送できます。

データの種類	内容	ファイルの拡張子
サンプリング音色 (17ページ)	サンプリングした音のデータ	TW7 DW7*1
ユーザーリズム (40ページ)	編集した自動伴奏データ	AC7
ユーザーソング (26ページ)	パソコンから読み込んだソングデータ(本機からパソコンへ送信することはできません)	CM2 MID*2
録音した曲 (45ページ)	演奏を記録したデータ	SP7 SL7*3
レジストレーション (43ページ)	音色やリズムの設定を登録したデータ	RM7
すべてのデータ	上記の全データ	AL7

※1: サンプルドラムセット音色

※2: 一般的なMIDIファイル(SMFフォーマット0、1)

※3: 内蔵曲にあわせて録音したデータ

データマネージャーをダウンロードする

- 以下のホームページから、データマネージャーと操作マニュアルをダウンロードして、お手持ちのパソコンに保存します。

<http://casio.jp/support/emi/>

- 本機の製品紹介のページにデータマネージャーのページへのリンクが貼られています。製品紹介のページが見つからない場合は、上記ホームページの検索フォームに本機の製品名を入力して検索してください。
- ダウンロードする前に、データマネージャーを使用するために必要なパソコン環境などについて、必ずご確認ください。
- ホームページの内容は、予告なく変更される場合があります。

- 手順1でダウンロードした操作マニュアルに従って、データマネージャーをインストールしてから、データ転送を行ってください。
 - 自動伴奏データの機種互換性については、手順1でダウンロードしたデータマネージャーの操作マニュアルをご覧ください。

■カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>)の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

- インターネット・ソングバンク
- インターネット楽譜ナビ

■カシオホームページの自動伴奏データのご利用について

CASIO Music Site (<http://music.casio.co.jp/>)の以下のサービスから、本機以外の製品の自動伴奏データをダウンロードして、本機に転送することができます。

Internet Data Expansion System
(インターネット・データ・エクспанション・システム)

メモ

- 本機専用のデータではないため、あらかじめ本機に内蔵されている自動伴奏とは異なる鳴り方をすることがあります。

オーディオ機器とつなぐ

市販のステレオやアンプに接続して大きな音量で鳴らしたり、録音機器に接続して本機での演奏を録音したりできます。また、携帯オーディオプレーヤーなどの音を本機で鳴らしながら、それをバックに演奏して楽しむことができます。

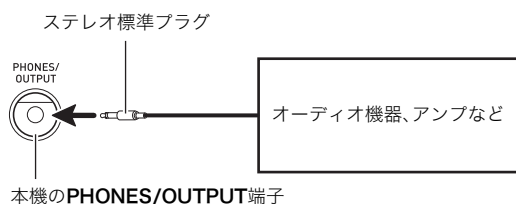
本機の音を外部機器で鳴らす

接続には市販の接続コードが使用できます。

- 片側がステレオ標準プラグ、もう一方は外部機器の入力端子に接続できるものをご用意ください。

重要

- 接続するときはすべての外部機器の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は本機、外部機器の順番で電源を入れてください。
- 外部機器で鳴らした本機の音が歪んだ音で聴こえる場合は、本機の音量を下げてください。



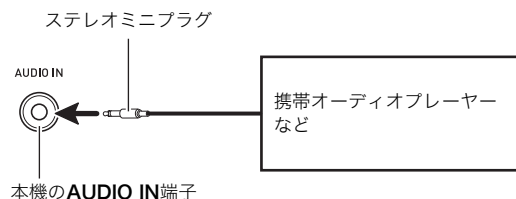
外部機器の音を本機で鳴らす

接続には市販の接続コードが使用できます。

- 片側がステレオミニプラグ、もう一方は外部機器の出力端子に接続できるものをご用意ください。

重要

- 接続するときは本機の電源を切ってください。また、電源のオンオフ操作のときは本機と外部機器の音量設定を小さめに絞っておいてください。
- 接続した後は外部機器、本機の順番で電源を入れてください。
- 本機で鳴らした外部機器の音が歪んだ音で聴こえる場合は、外部機器の音量を下げてください。



困ったときは

状況	対策
付属品	
梱包箱のなかに付属品が見つからない。	緩衝材の中も探してみる。
電源	
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ACアダプターの接続状態や、電池の装着方向が正しいか確認する(8ページ)。 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
電源ボタン(①)を押すと、液晶画面が一瞬点灯し、電源が入らない。	①をしっかりと押し直してください。
大きな音を出すと、突然電源が切れる。	新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
数分ほど弾かないでいると、突然電源が切れる。	オートパワーオフ機能を解除する(9ページ)。
表示	
液晶画面の表示が暗くなったり、ちらついたりするようになった。	新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
液晶画面の鍵盤や楽譜表示で、音の表示が点灯したままになった。	ステップアップレッスンで、次の音の鍵盤が弾かれるのを待っている状態です。レッスンを停止させると、音の表示も消灯します(29ページ)。
液晶画面の表示が一定の方向からしか見えない。	本機の製造上の制約等によるもので、故障ではありません。
音	
鍵盤を弾いても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 音量の設定(9ページ)を変えてみる。 本機背面の④にプラグが差さっていないか確認する。 音色番号の601~608は、サンプリングした音が記録されていない場合には鍵盤を押しても音が鳴りません(17ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
左側の鍵盤だけ音が出ない(あるいは通常と違う音が鳴る)。	⑩を押して、自動伴奏のコード入力ができる状態を解除する(34ページ)。
自動伴奏をスタートしても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> リズム番号の171~180は、コードを入力しないと音が鳴らないリズムパターンです。コードを入力してみてください(34ページ)。 伴奏の音量の設定(37ページ)を確認して調整する。 リズム番号の181~190は、編集したリズムが保存されていない場合には⑩を押しても自動伴奏がスタートしません(40ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
ソングの自動演奏をスタートしても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ボタンを押してからソングが始まるまでに少し時間がかかります。ソングが始まるまで少しお待ちください。 曲の音量の設定(26ページ)を確認して調整する。 ソング番号の153~162は、ソングデータが保存されていない場合には⑩を押してもソングがスタートしません(26ページ)。 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
メトロノームの音が鳴らない。	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏の音量の設定(37ページ)を確認して調整する。 曲の音量の設定(26ページ)を確認して調整する。 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
音が鳴りっぱなしで止まらなくなった。	<ul style="list-style-type: none"> 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
鳴らしている音が途切れてしまう。	同時に鳴っている音の数が48(音色によっては24)を超えると発生します。故障ではありません。

状況	対策
音量や音質が変わってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> • 音量の設定(9ページ)を変えてみる。 • 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。 • 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(8ページ)。
鍵盤を弾くタッチを変えても、出る音の音量が変わらない。	<ul style="list-style-type: none"> • タッチレスポンスの設定(10ページ)を変えてみる。 • 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
特定の鍵盤の音量や音質が、他の鍵域の鍵盤と若干違って聴こえる。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
端の方の鍵盤を弾いていると、同じオクターブの音が繰り返されるように聴こえる音色がある。	本機のシステムの制約等によるもので、故障ではありません。
音の高さが他の楽器とあわない(あるいは不自然に聴こえる)。	<ul style="list-style-type: none"> • トランスポーズ(15ページ)やチューニング(15ページ)の設定を確認して調整する。 • 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
音の響きが急に変わったように感じる。	<ul style="list-style-type: none"> • リバープの設定(14ページ)を確認して調整する。 • 本機の電源を入れなおしてみる(9ページ)(各種設定は初期化されます)。
操作	
ソングの早送りや早戻しをすると、1小節ごとではなく何小節もまとめて移動してしまう。	ソングの停止中、またはステップアップレッスン中に早送りや早戻しをすると、フレーズ単位で移動します(25ページ)。
電源を入れなおすと、音色、リズムなどの設定が元に戻ってしまう。	本機では、電源を入れなおすと各種設定が初期化されます(9ページ)。いくつかの設定はレジストレーションに登録して保存することができます(43ページ)。
パソコンとの接続	
MIDIデータの送受信ができない。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する(53ページ)。 • 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。

製品仕様

型式	CTK-4200/WK-220
鍵盤	CTK-4200:61鍵盤 WK-220:76鍵盤
タッチレスポンス機能	2種類、オフ
同時発音数	最大48音(一部音色では最大24音)
音色機能	
プリセット音色	600音色
サンプリング音色	最大8音色(メロディーサンプリング:5、ドラムサンプリング:3)※ 記録時間:最長10秒
その他	レイヤー、スプリット、ピアノ/オルガンボタン
リバーブ機能	10種類、オフ
コーラス機能	5種類、オフ
メトロノーム機能	
拍子	0、2～6拍子
テンポ	30～255
ソングバンク機能	
プリセットソング	152曲
ユーザーソング	最大10曲※
ステップアップレッスン機能	
レッスンの種類	4種類(レッスン1/2/3、自動ステップアップレッスン)
レッスンパート	左手、右手、両手
その他	リピート、運指音声、弾くべき音のガイド、採点
ミュージックチャレンジ機能	20音符
自動伴奏機能	
プリセットリズム	180種類
ユーザーリズム	最大10種類(自動伴奏編集機能)※
コードブック機能	コード音のガイド
レジストレーション機能	最大32セット(4セット×8バンク)
録音機能	
リアルタイム録音、再生	
鍵盤演奏録音	5曲、6トラック
ソングバンク曲にあわせての録音	1曲(左手、右手、両手)
メモリー容量	約12,000音符(6曲合計)
その他の機能	
トランスポーズ	±1オクターブ(-12～0～+12半音)
オクターブシフト	アッパー/ロワー、±2オクターブ
チューニング	A4=415.5～465.9Hz(初期値:440.0Hz)
スケール	プリセットスケール17種類
ミュージックプリセット	305種類
ワンタッチプリセット	180種類
オートハーモナイズ	12種類
アルペジエーター	90種類
MIDI機能	16chマルチティンバー受信、GMレベル1準拠
ミュージカルインフォメーション機能	音色・自動伴奏・ソングバンクの番号および名称、五線譜、運指、ペダル、テンポ、小節数・拍子、コード名等

※これらのデータ(サンプリング音色、ユーザーソング、ユーザーリズム)は、共通のメモリーエリアに保存されます。

- メモリー総容量:約320キロバイト(1キロバイト=1024バイト)

端子	
USB端子	タイプB
サステイン/アサインابل端子	標準ジャック(サステイン、ソステヌート、ソフト、リズム)
ヘッドホン/アウトプット端子	ステレオ標準ジャック 出力インピーダンス:140Ω、出力電圧:4.5V(RMS)MAX
オーディオ入力端子	ステレオミニジャック 入力インピーダンス:9kΩ、入力感度:200mV
マイク/サンプリング入力端子 (WK-220のみ)	標準ジャック(ダイナミックマイクを接続) 入力インピーダンス:3kΩ、入力感度:10mV
電源端子	DC9.5V
電源	2電源方式
電池	CTK-4200 : 単3形マンガン乾電池または単3形アルカリ乾電池6本使用 WK-220 : 単1形マンガン乾電池または単1形アルカリ乾電池6本使用
電池持続時間	CTK-4200 : 約3時間(アルカリ乾電池使用時) WK-220 : 約5時間(マンガン乾電池使用時)
家庭用AC100V電源 オートパワーオフ機能	ACアダプターAD-E95100L使用 約6分後(乾電池使用時) / 約30分後(ACアダプター使用時)、キャンセル可能
スピーカー	12cm×2(出力2.5W+2.5W)
消費電力	9.5V --- 7.7W
サイズ幅	CTK-4200 : 幅94.8×奥行35.0×高さ10.3cm WK-220 : 幅116.1×奥行38.5×高さ13.4cm
質量	CTK-4200 : 約4.3kg(乾電池含まず) WK-220 : 約6.9kg(乾電池含まず)

・改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理サービス窓口」が修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

あらかじめご了承くださいこと

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理サービス窓口」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

エラーメッセージ一覧

液晶画面の表示	原因	対策
Err Exist	サンプルドラムセット音色のコピー(21ページ)で、コピー先として選んだ鍵盤に他のサンプリング音が記録されているため、コピーすることができない。	<ul style="list-style-type: none"> 記録されているサンプリング音を消去する(21ページ)。 サンプリング音が記録されていない他の鍵盤をコピー先として選ぶ。
Err Limit	ドラムサンプリングを開始する前に選んだ音色番号に、すでに8種類(記録できる限界数)のサンプリング音が記録されているため、これ以上記録することができない。	<ul style="list-style-type: none"> 記録されているサンプリング音のいずれかを消去する(21ページ)。 8種類のサンプリング音まで記録されていない他の音色番号を選ぶ(19ページ)。
Err Mem Full	サンプリング音や自動伴奏を編集するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。	本機に保存している以下のユーザーデータのいずれかを消去して、メモリー空き領域を増やす。 サンプリング音(17ページ)、ユーザーリズム(40ページ)、ユーザーソング(26ページ)
Err No Data	本機で選んだユーザーエリア(音色、リズム、ソング番号など)にデータが入っていない。	データが保存されている本機のユーザーエリアを選ぶ。
Err Protect	サンプリング音色がプロテクトされている。	サンプリング音色のプロテクトを解除して、上書き保存または消去できるようにする。
Err SizeOver	編集しようとしている自動伴奏の伴奏パターンや楽器パートのデータサイズが大きすぎて、編集できない。	別の伴奏パターンや楽器パートを選ぶ。

ソングリスト

ソングバンク

世界の曲	
001	きらきら星
002	ちょうちょう
003	ロング・ロング・アゴー
004	オン・トップ・オブ・オールド・スモーキー
005	さくら さくら
006	聖者の行進
007	アメイジング・グレイス
008	ほたるの光
009	ぶんぶんぶん
010	かわいいオーガスチン
011	こげよマイケル
012	ダニー・ボーイ
013	マイ・ボニー
014	埴生の宿
015	オーラ・リー
016	峠の我が家
017	アロハ・オエ
018	サンタ・ルチア
019	ふるさと
020	グリーンズリーブス
021	ジェリコの戦い
022	パン屋さん
023	ロンドン橋
024	大きな栗の木の下で
025	森のくまさん
026	大きな古時計
027	アニー・ローリー
028	夢路より
029	しあわせなら手をたたこう
030	愛しのクレメンティン
031	茶色のこびん
032	朝日のあたる家
033	黄色いリボン
034	アルプス一万尺
035	ケンタッキーの我が家
036	森へ行きましょう
037	トロイカ
038	フルツィング・マチルダ
039	アビニョンの橋で
040	線路は続くよどこまでも
041	おお スザンナ
042	草競馬
043	金髪のジェニー
044	わらの中の七面鳥
045	さらばジャマイカ
イベント	
046	きよしこの夜
047	おめでとウクリスマス
048	ジングル・ベル
049	もろびとこぞりて
050	もみの木
ピアノ/クラシック	
051	メリーさんのひつじ
052	白鳥「動物の謝肉祭」より
053	ジュ・トゥ・ヴ
054	ソナタ 作品13「悲愴」第2楽章
055	野ばら
056	G線上のアリア

057	春「四季」より
058	ハバネラ 歌劇「カルメン」より
059	乾杯の歌 歌劇「椿姫」より
060	ハンガリー舞曲 第5番
061	ト長調のメヌエット
062	ニ長調のミュゼット
063	ガボット (ゴセック)
064	アラベスク (ブルクミュラー)
065	チョップスティックス
066	ひいらぎかざろう
067	喜びの歌
068	アヴェ・マリア (グノー)
069	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
070	プレリュード 作品28の7 (ショパン)
071	夢
072	ジムノペディ 第1番
073	家路「新世界から」より
074	エリーゼのために
075	トルコ行進曲 (モーツァルト)
076	ソナタ 作品27の2「月光」第1楽章
077	別れの曲
078	エンターティナー
079	結婚行進曲「真夏の夜の夢」より
080	アメリカン・パトロール
081	楽しき農夫
082	貴婦人の乗馬
083	ソナタ K.545 第1楽章
084	乙女の祈り
085	小犬のワルツ
086	愛の夢 第3番
087	主よ、人の望みの喜びよ
088	カノン (パッヘルベル)
089	セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より
090	行進曲「くるみ割り人形」より
091	インヴェンション 第1番
092	プレリュード 第1番 (J.S. バッハ)
093	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
094	ユーモレスク (ドヴォルザーク)
095	人形の夢と目覚め
096	亜麻色の髪の乙女
097	アラベスク 第1番 (ドビュッシー)
098	トロイメライ
099	メープル・リーフ・ラグ
100	ノクターン 作品9の2 (ショパン)
脳にキク	
101~150	エクササイズ I / II / III
デモ曲	
151~152	デモ曲
ユーザーソング	
153~162	ユーザー 1 ~ 10

指定できるコード種一覧

フィンガード1、2で指定できるコード種

C (メジャー)	
Cm (マイナー)	
Cdim (ディミニッシュ)	
Caug (オーギュメント) ^{※3}	
Csus4 (サスフォー) ^{※3}	
Csus2 (サスツー) ^{※3}	
C7 (セブンス)	
Cm7 (マイナーセブンス) ^{※3}	
CM7 (メジャーセブンス)	
(マイナーセブンスフラットフィフス) ^{※3}	
C7 ^{♭5} (セブンスフラットフィフス) ^{※3}	
C7sus4 (セブンスサスフォー)	
Cadd9 (アドナインズ)	
Cmadd9 (マイナーアドナインズ)	
CmM7 (マイナーメジャーセブンス)	
Cdim7 (ディミニッシュセブンス) ^{※3}	
C69 (シックスナインズ) ^{※3}	
C6 (シックス) ^{※1 ※3}	
Cm6 (マイナーシックス) ^{※2 ※3}	

※1 フィンガード2では、Am7として判別されます。
 ※2 フィンガード2では、Am7^{♭5}として判別されます。
 ※3 転回形では使えない場合があります。

フィンガード3、フルレンジコードで指定できるコード種

フィンガード1、2で指定できるコード種に加え、下記のコード種が判別できます。

$$\frac{C^\sharp}{C} \cdot \frac{D}{C} \cdot \frac{E}{C} \cdot \frac{F}{C} \cdot \frac{G}{C} \cdot \frac{A^\flat}{C} \cdot \frac{B^\flat}{C} \cdot \frac{B}{C} \cdot \frac{C^\sharp m}{C} \cdot \frac{Dm}{C} \cdot \frac{Fm}{C}$$

$$\frac{Gm}{C} \cdot \frac{Am}{C} \cdot \frac{B^\flat m}{C} \cdot \frac{Ddim}{C} \cdot \frac{A^\flat 7}{C} \cdot \frac{F7}{C} \cdot \frac{Fm7}{C} \cdot \frac{Gm7}{C} \cdot \frac{A^\flat add9}{C}$$

メモ

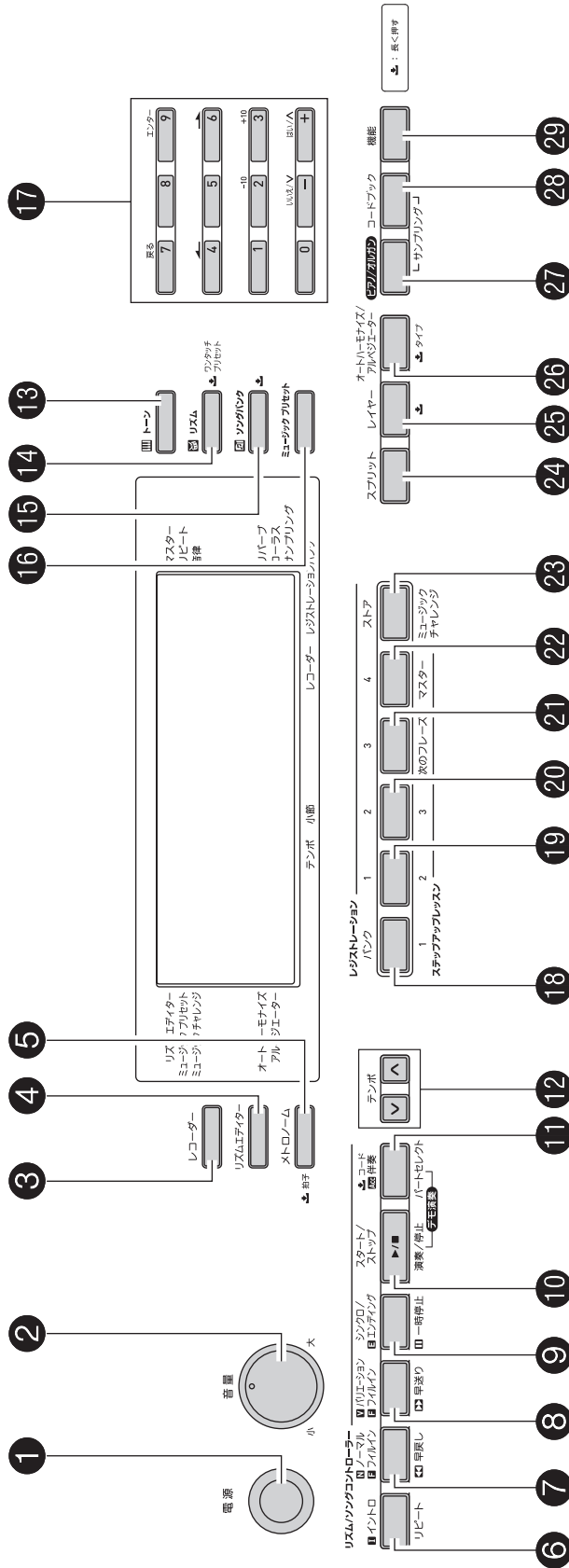
- フィンガード3では、最低音がベース音として判別され、転回形は使えません。
- フルレンジコードでは、最低音とその次の音がある程度離れている場合に、分数コードとして判別されます。
- フルレンジコードではフィンガード1・2・3と異なり、鍵盤を3つ以上押したときに限りコードが指定されます。

コードの種類	C	C#(D♭)	D	(D♯)/E♭	E	F	F#(G♯)	G	(G#)/A♭	A	(A#)/B♭	B
M												
m												
dim												
aug												
sus4												
sus2												
7												
m7												
M7												
m7#5												
7#5												
7sus4												
add9												
madd9												
mM7												
dim7												
69												
6												
m6												

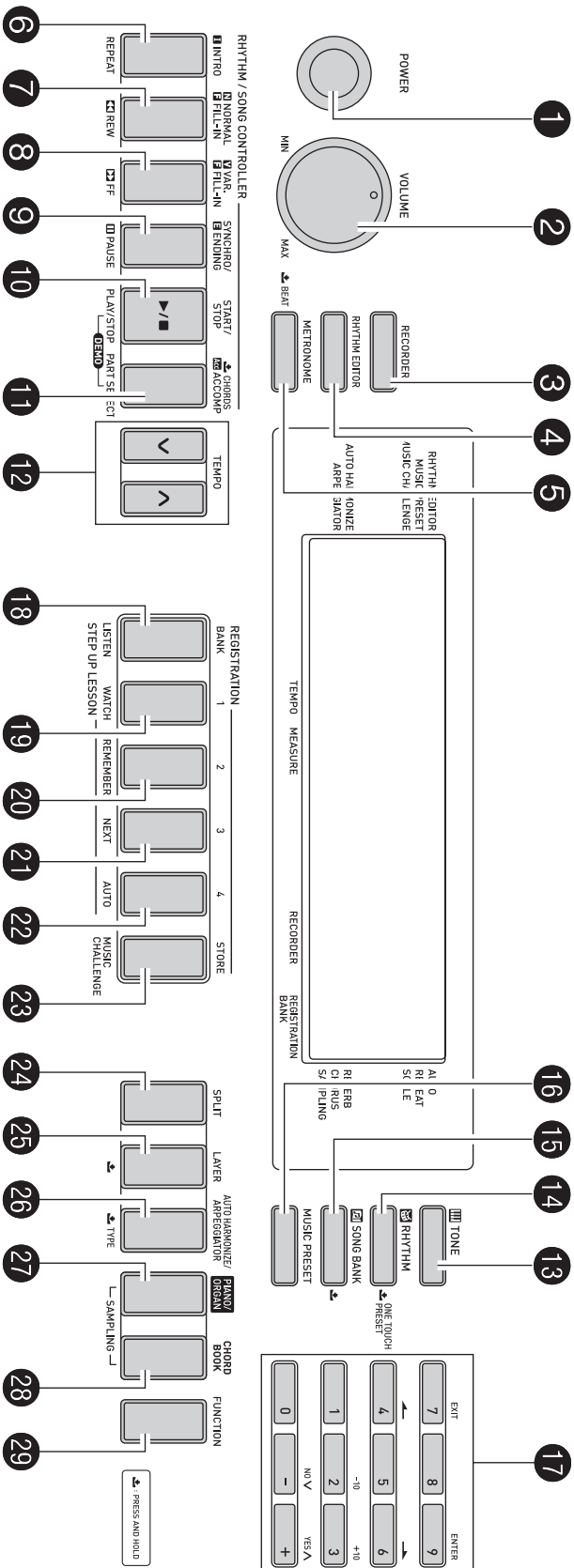
•コード入力鍵盤の範囲などの制約により、一部のコードでは上記のとおり指定できない場合があります。

• 点線から切り離して、本書の操作説明を読むときに活用ください。

CTK-4200



WK-220



MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	1 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	電源ON時 メッセーシ 代用	モード3 × *****	モード3 × *****
ノート ナンバー	音域	12 ~ 120 *****	0 ~ 127 0 ~ 127*1
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH v = 1 ~ 127 × 9nH v = 0	○ 9nH v = 1 ~ 127 × 9nH v = 0, 8nH v = ** **は関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○
ピッチベンド		×	○
コントロール チェンジ	0, 32 1 6, 38 7 10 11	○ × × ○ ○ ×	○ (MSBのみ) ○ ○*2 ○ ○ ○ ○
			バンクセレクト モジュレーション データエントリー ポリエーム パン エクスプレッション

64 66 67 91 93 100, 101	○*3 ○*3 ○*3 × ○ ×	○ ○ ○ ○ ○ ○*2	ホールド1 ソステヌート ソフト リバースェンド コーラスェンド RPN LSB, MSB
プログラムチェンジ 設定可能範囲	○0～127 *** ** ** ** *	○0～127	
エクスクルーシブ	○*2	○*2	
ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム コマンド	○ ○	× ×	
その他 オールサウンドオフ リセットオールコントロール ローカル オン/オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× ○ × ○ × ×	○ ○ × ○ ○ ×	
備考	*1: 音色による *2: 送受信対応 NRPN, RPN, システム・エクスクルーシブ・メッセージの詳細は MIDI Implementation (http://casio.jp/support/emi/) 参照 *3: アサナブル端子の設定により択一		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○ : あり
× : なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

☐ MA1107-B Printed in China
CTK4200/WK220-JA1B